

名古屋市第5次一般廃棄物処理基本計画
策定にかかる
参 考 資 料

1 市民アンケート実施結果

(1) アンケートの概要

項目	内容
目的	第5次一般廃棄物処理基本計画策定に向けた市民意見の把握
調査対象	名古屋市内に居住する20歳以上の市民 2,000人 (外国人含む)
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録原票から無作為抽出
調査期間	平成27年6月24日(水)～平成27年7月8日(水)
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	配布数 2,000人 有効回収数 916人 有効回収率45.8%

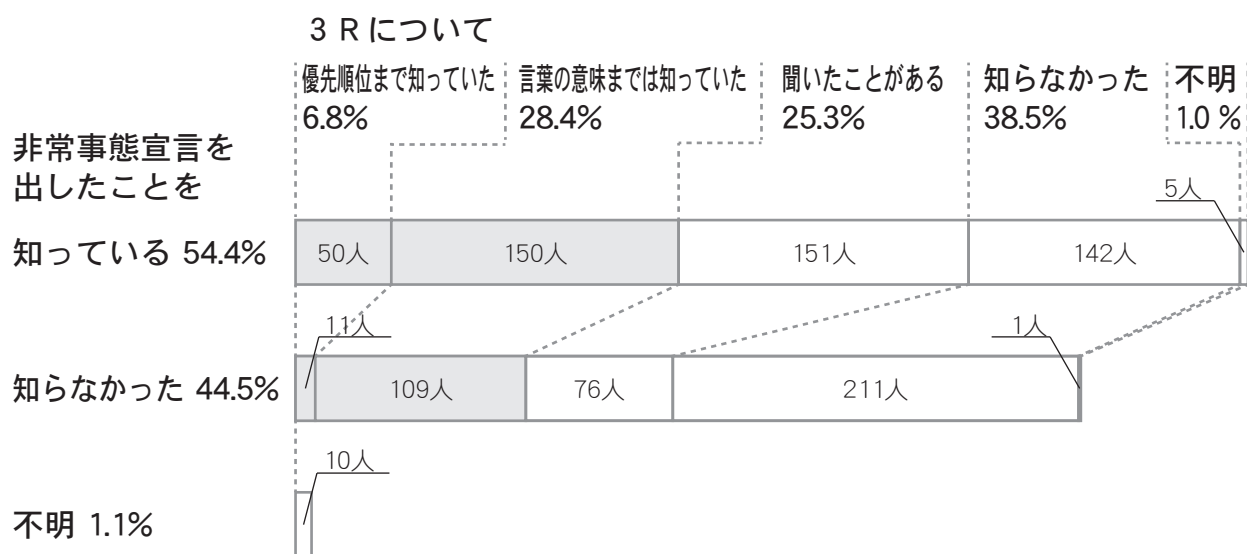
(2) 標本構成

性別	<table border="1"> <tr> <td>男性 190人</td> <td>女性 721人</td> <td>不明5人</td> </tr> </table>	男性 190人	女性 721人	不明5人					
男性 190人	女性 721人	不明5人							
年齢	<table border="1"> <tr> <td>20代51人</td> <td>30代 115人</td> <td>40代 161人</td> <td>50代 174人</td> <td>60代 204人</td> <td>70代 174人</td> <td>80才以上34人</td> <td>不明3人</td> </tr> </table>	20代51人	30代 115人	40代 161人	50代 174人	60代 204人	70代 174人	80才以上34人	不明3人
20代51人	30代 115人	40代 161人	50代 174人	60代 204人	70代 174人	80才以上34人	不明3人		
世帯人数	<table border="1"> <tr> <td>1人 109人</td> <td>2人 317人</td> <td>3人 225人</td> <td>4人 165人</td> <td>5人 63人</td> <td>7人以上7人</td> <td>6人27人</td> <td>不明3人</td> </tr> </table>	1人 109人	2人 317人	3人 225人	4人 165人	5人 63人	7人以上7人	6人27人	不明3人
1人 109人	2人 317人	3人 225人	4人 165人	5人 63人	7人以上7人	6人27人	不明3人		
居住形態	<table border="1"> <tr> <td>戸建住宅 483人</td> <td>集合住宅 428人</td> <td>不明5人</td> </tr> </table>	戸建住宅 483人	集合住宅 428人	不明5人					
戸建住宅 483人	集合住宅 428人	不明5人							
居住年数	<table border="1"> <tr> <td>1年未満20人</td> <td>1年以上5年未満121人</td> <td>5年以上 769人</td> <td>不明6人</td> </tr> </table>	1年未満20人	1年以上5年未満121人	5年以上 769人	不明6人				
1年未満20人	1年以上5年未満121人	5年以上 769人	不明6人						

(3) アンケート実施結果 (抜粋)

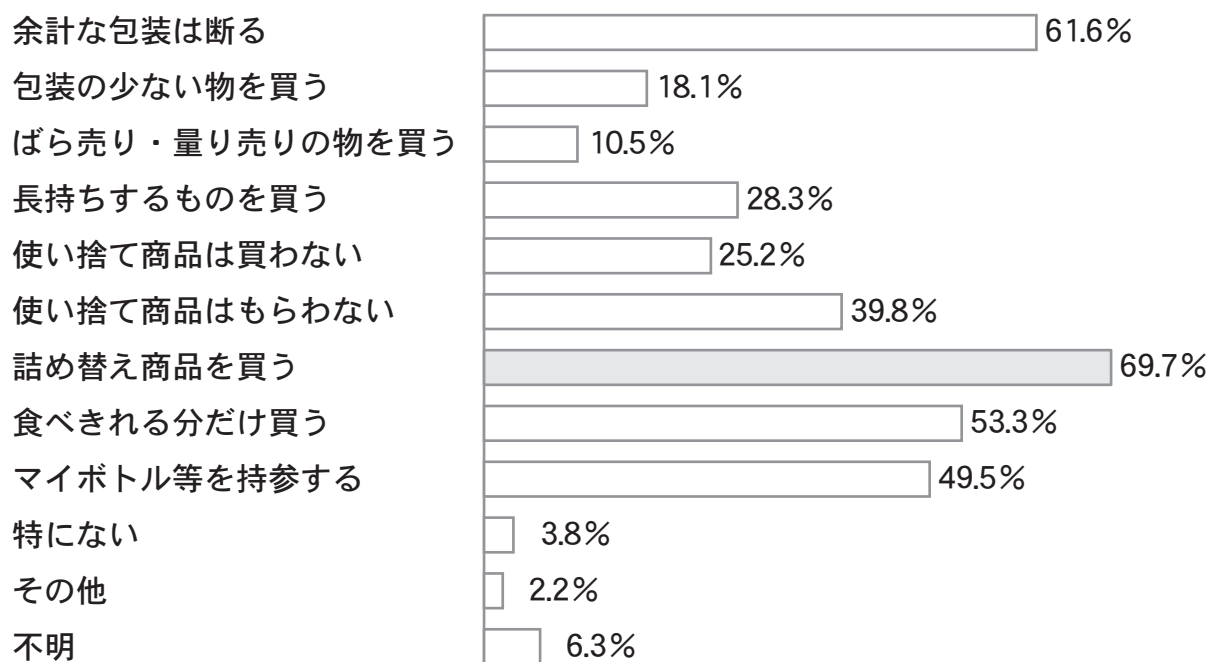
①ごみ非常事態宣言と3Rについて N=916

- 名古屋市が平成11年2月に「ごみ非常事態宣言」を出したことを知っていますか。
(当てはまるもの1つに○)
- 3R(スリーアール)という言葉を知っていますか。
(当てはまるもの1つに○)



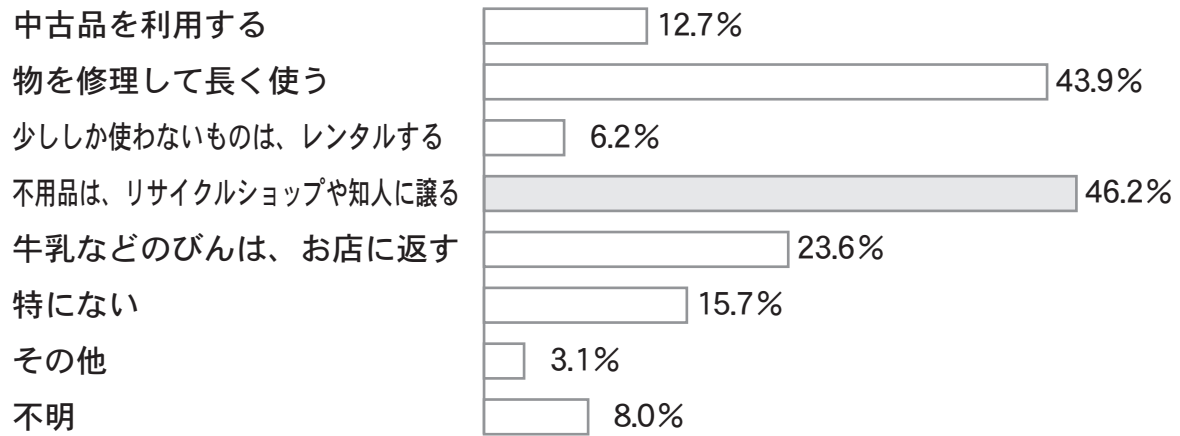
②発生抑制の実践について N=916

- ごみが発生しないように、あなたが日ごろから実践していることは何ですか。
(当てはまるものすべてに○)

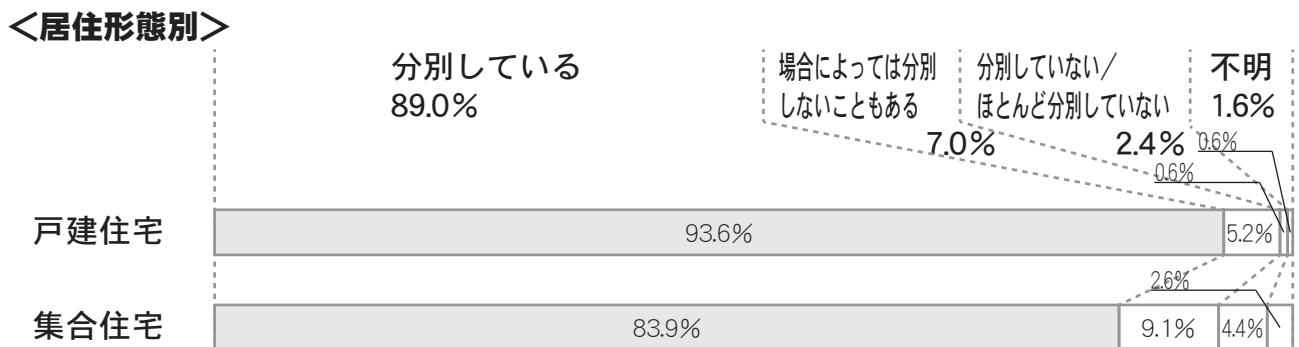
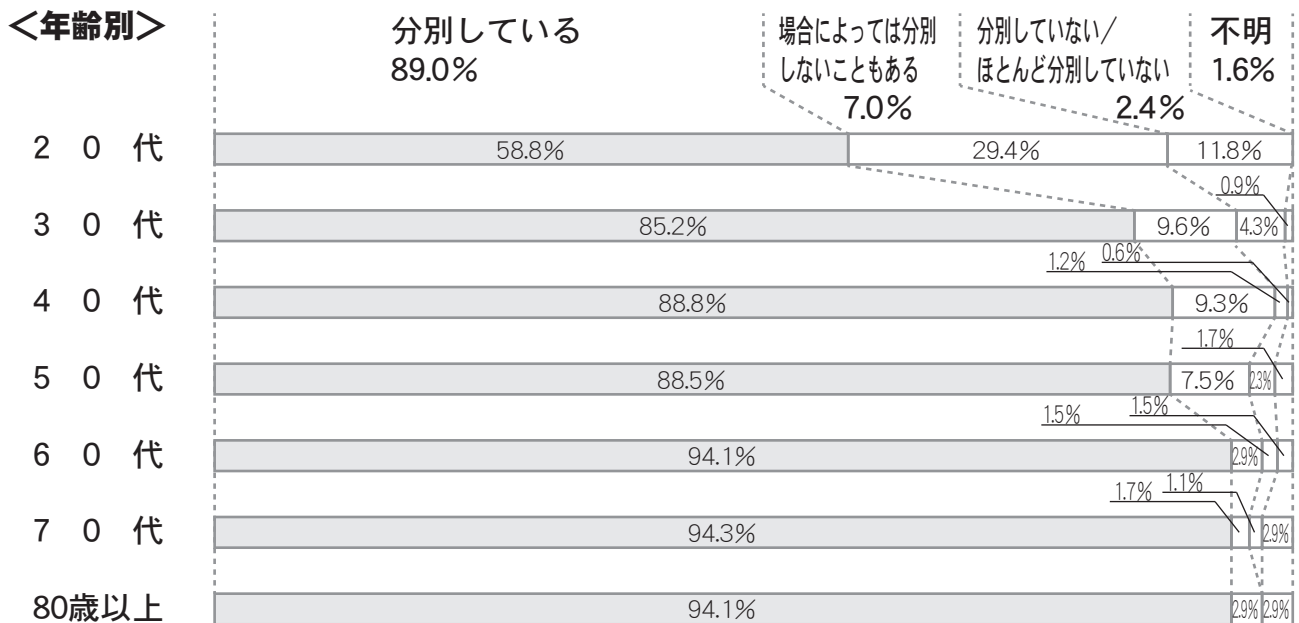


③再利用の実践について N=916

■物の再利用という点で、あなたが日ごろから実践していることは何ですか。
(当てはまるものすべてに○)

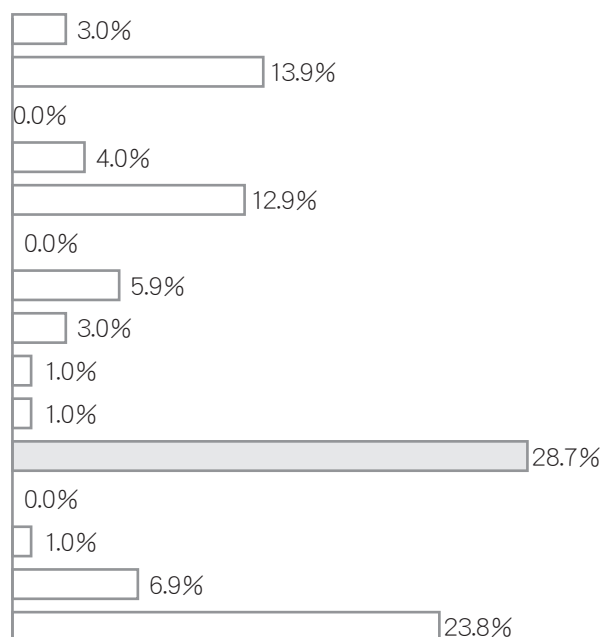


④プラスチック製容器包装の分別状況について N=916

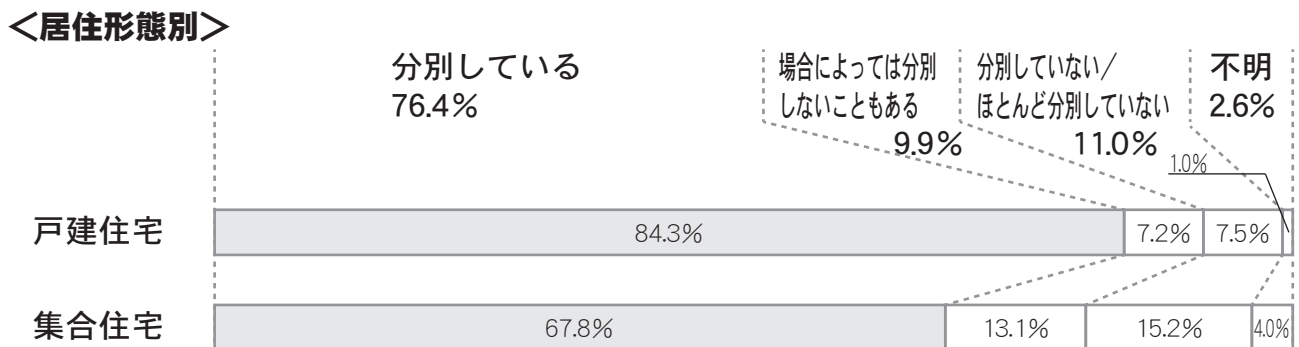
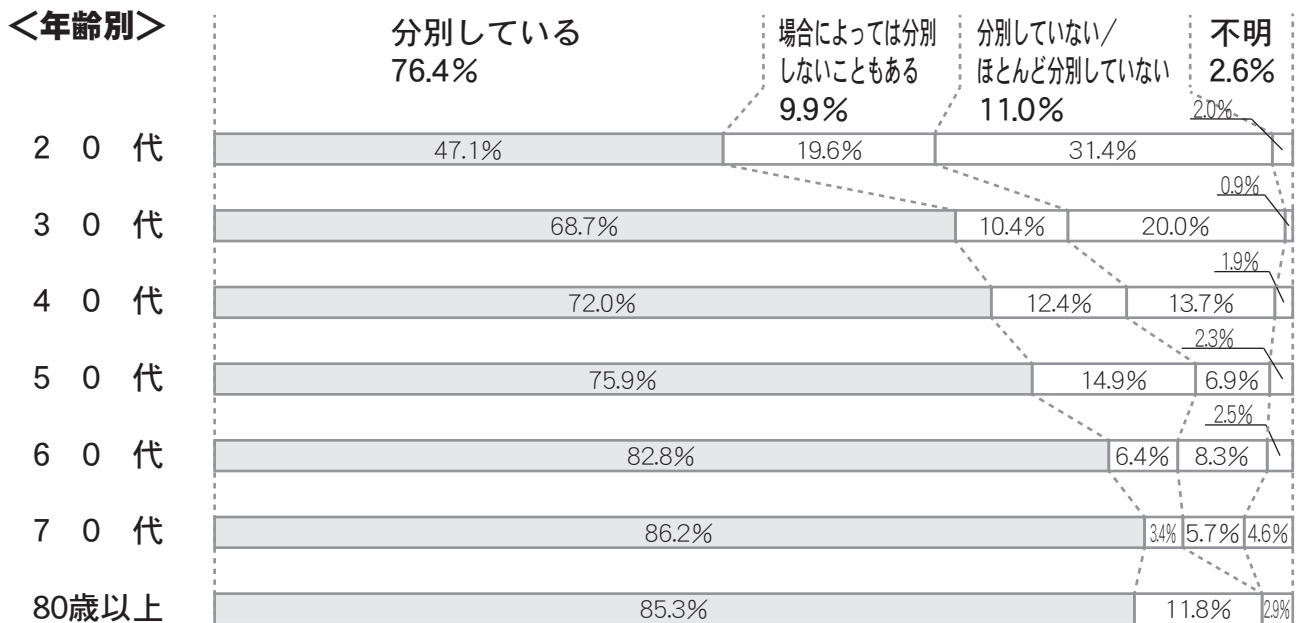


<分別が難しい理由> N=101

- 分別することを知らなかった
- 分別の基準が分からない
- 収集日・場所が分からない
- 保管場所がない／回収頻度が少ない
- 分別して排出するほど、量が出ない
- 個人情報気になる
- 燃える素材だから
- 分別する理由が分からない
- 分別して出す時間がない
- 周りの人も分別していない
- 汚れを取ることが手間
- ひもで縛ったり、袋に入れるのが手間
- 集積場所まで持って行くのが手間
- その他
- 不明

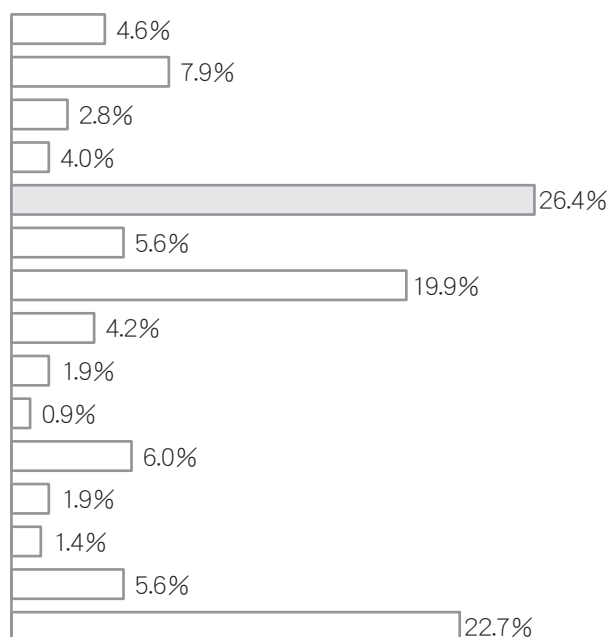


⑤紙製容器包装の分別状況について N=916

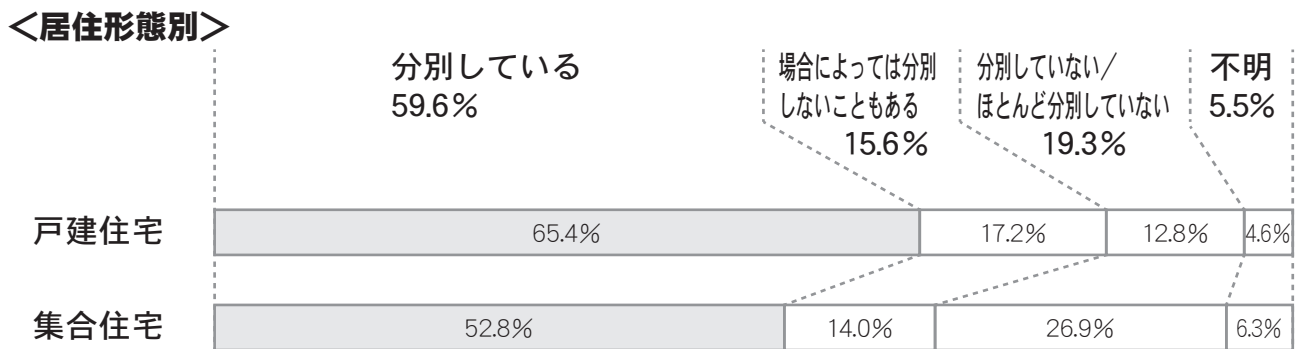
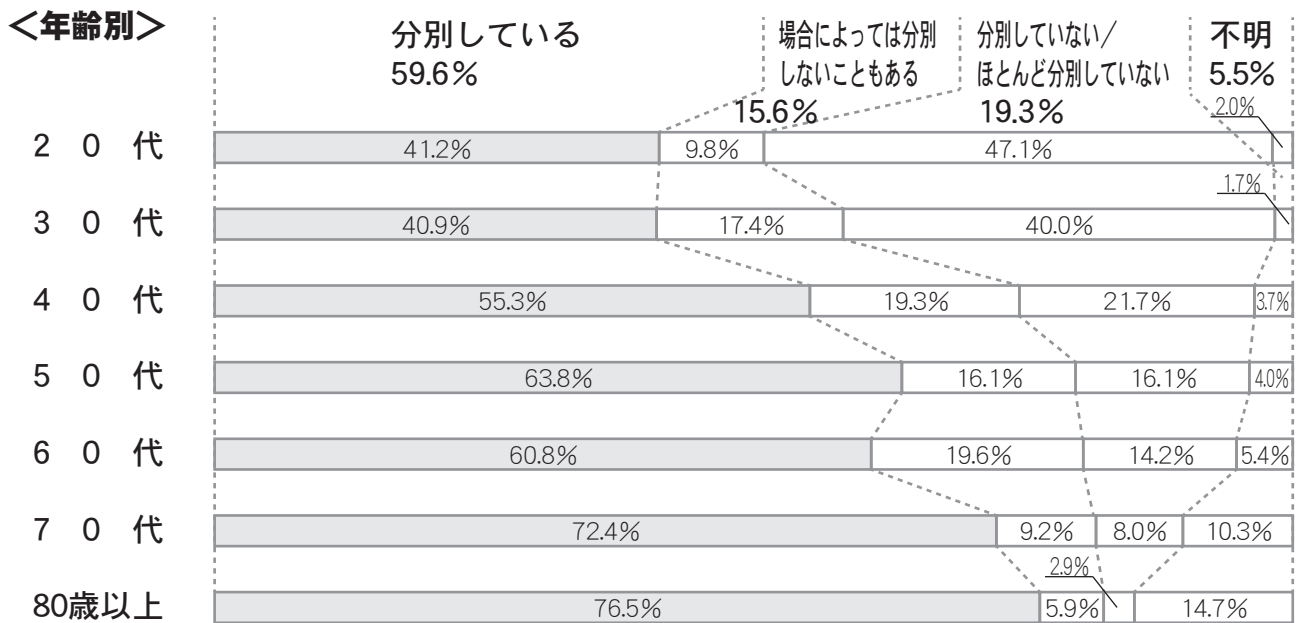


<分別が難しい理由> N=216

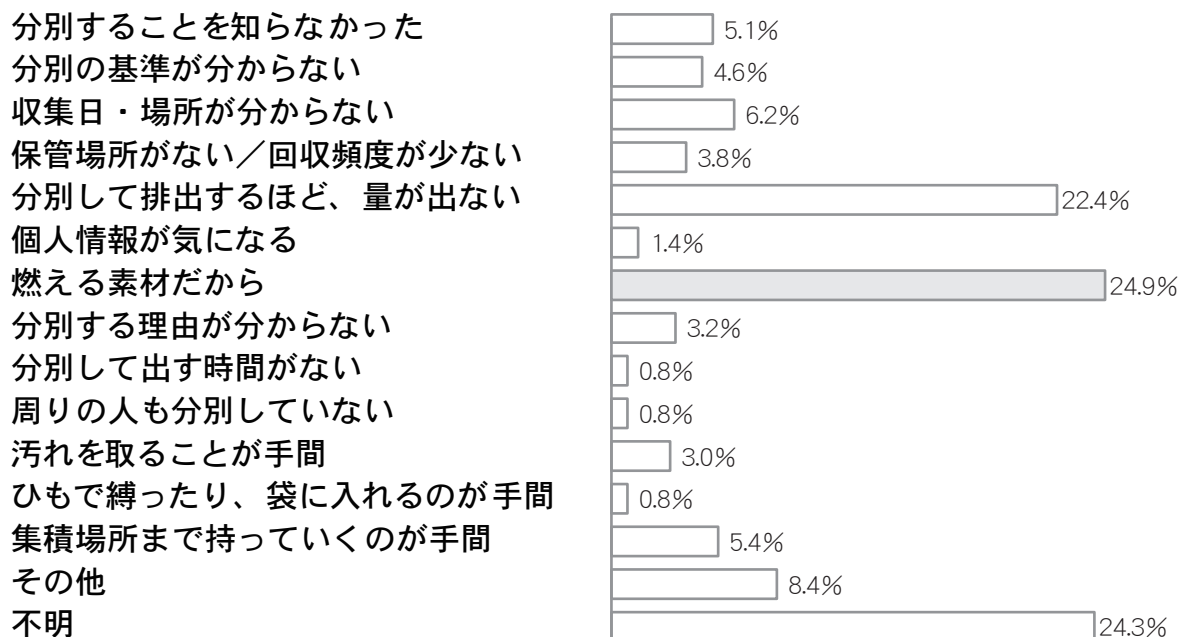
- 分別することを知らなかった
- 分別の基準が分からない
- 収集日・場所が分からない
- 保管場所がない／回収頻度が少ない
- 分別して排出するほど、量が出ない
- 個人情報気になる
- 燃える素材だから
- 分別する理由が分からない
- 分別して出す時間がない
- 周りの人も分別していない
- 汚れを取ることが手間
- ひもで縛ったり、袋に入れるのが手間
- 集積場所まで持っていくのが手間
- その他
- 不明



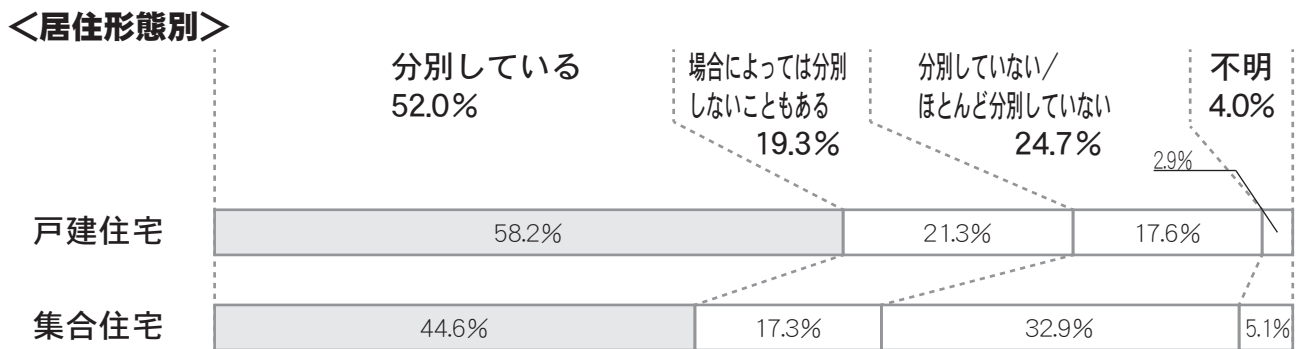
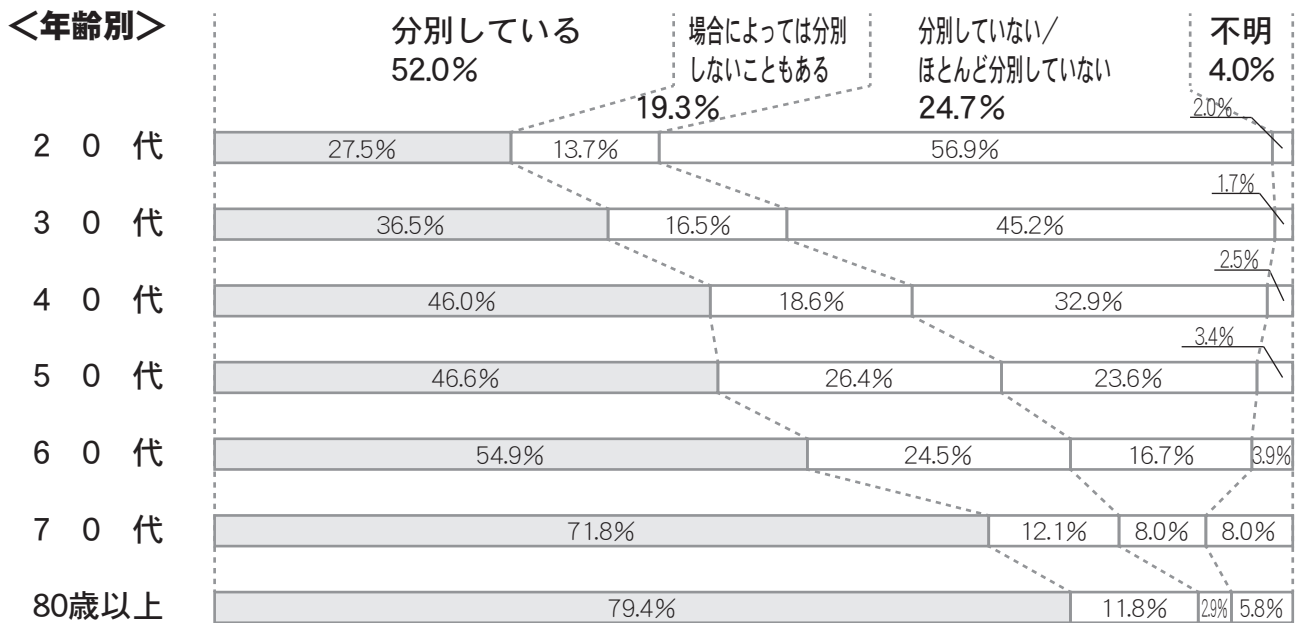
⑥古着・古布の分別状況について N=916



＜分別が難しい理由＞ N=370

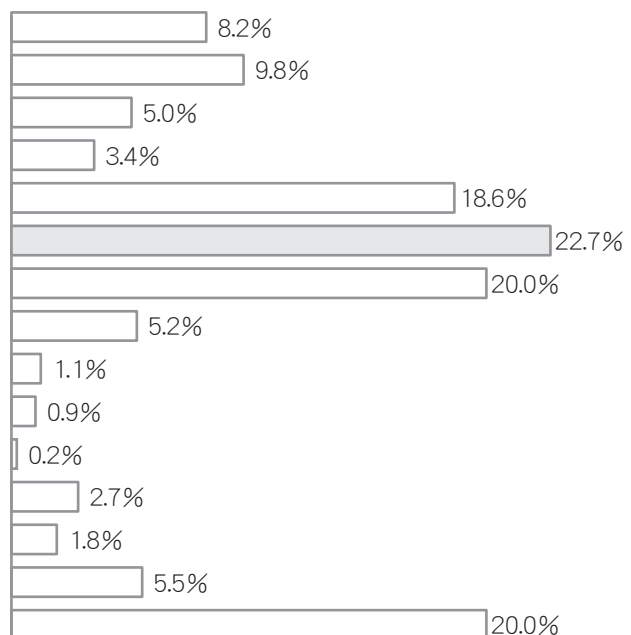


⑦雑がみの分別状況について N=916



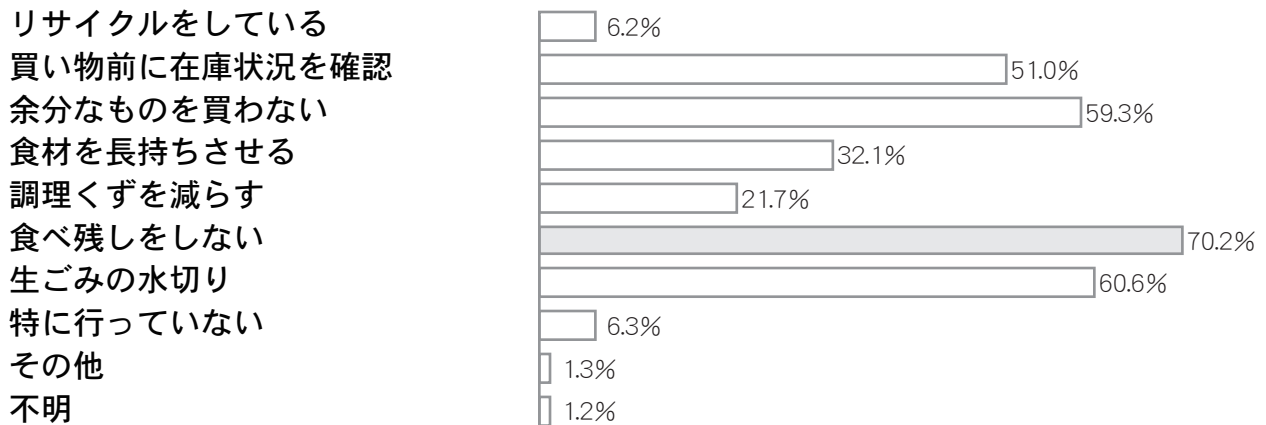
＜分別が難しい理由＞ N=440

- 分別することを知らなかった
- 分別の基準が分からない
- 収集日・場所が分からない
- 保管場所がない／回収頻度が少ない
- 分別して排出するほど、量が出ない
- 個人情報気になる
- 燃える素材だから
- 分別する理由が分からない
- 分別して出す時間がない
- 周りの人も分別していない
- 汚れを取ることが手間
- ひもで縛ったり、袋に入れるのが手間
- 集積場所まで持っていくのが手間
- その他
- 不明

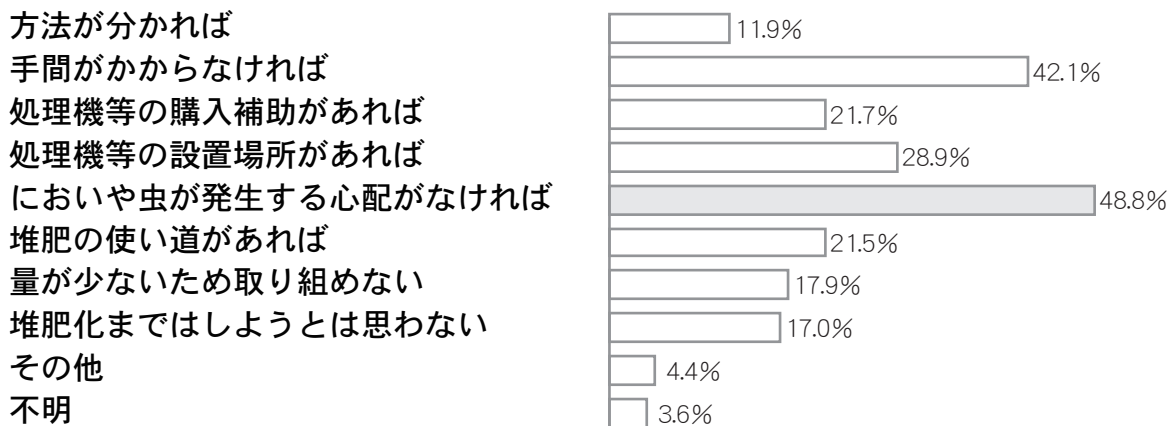


⑧生ごみについて N=916

■生ごみを減らすために何か工夫をしていますか。(当てはまるものすべてに○)

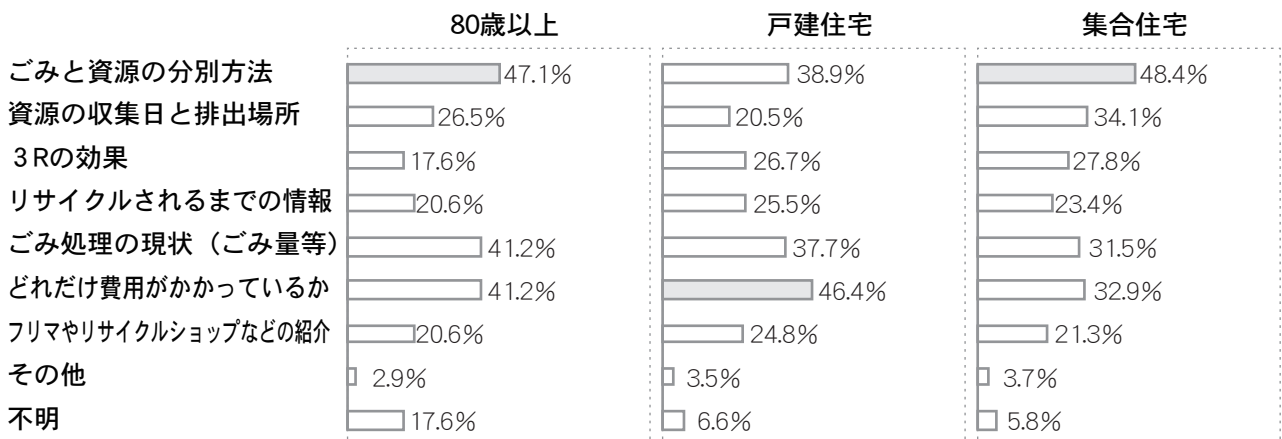
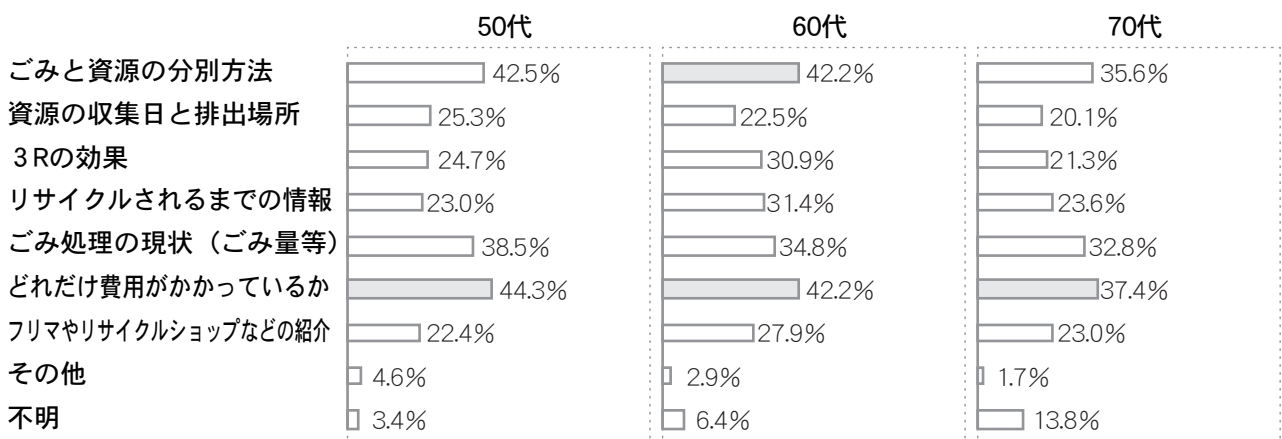
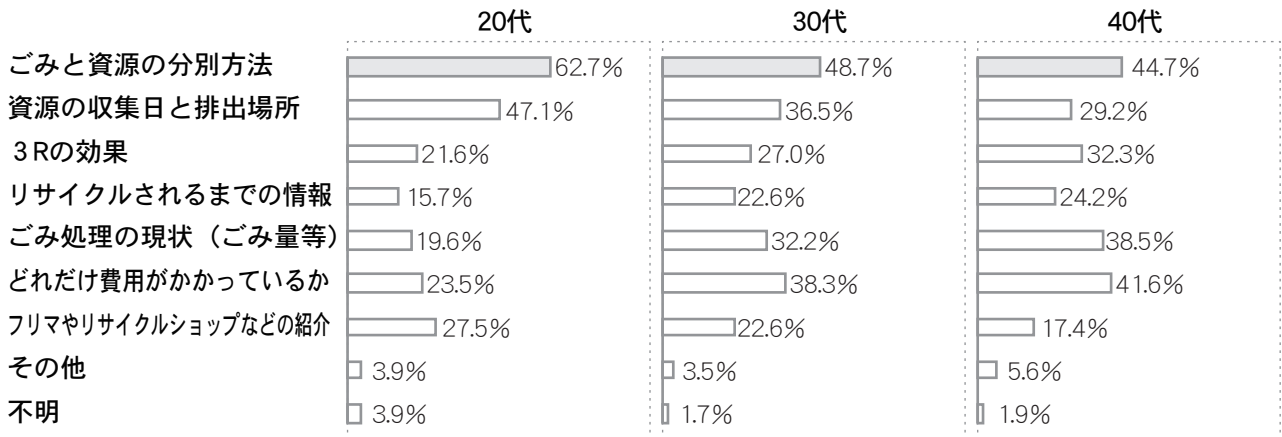


■生ごみは、堆肥にリサイクルすることが可能です。どのような条件が整えば取り組もうと思いますか。(重要だと思われるもの3つまで○)

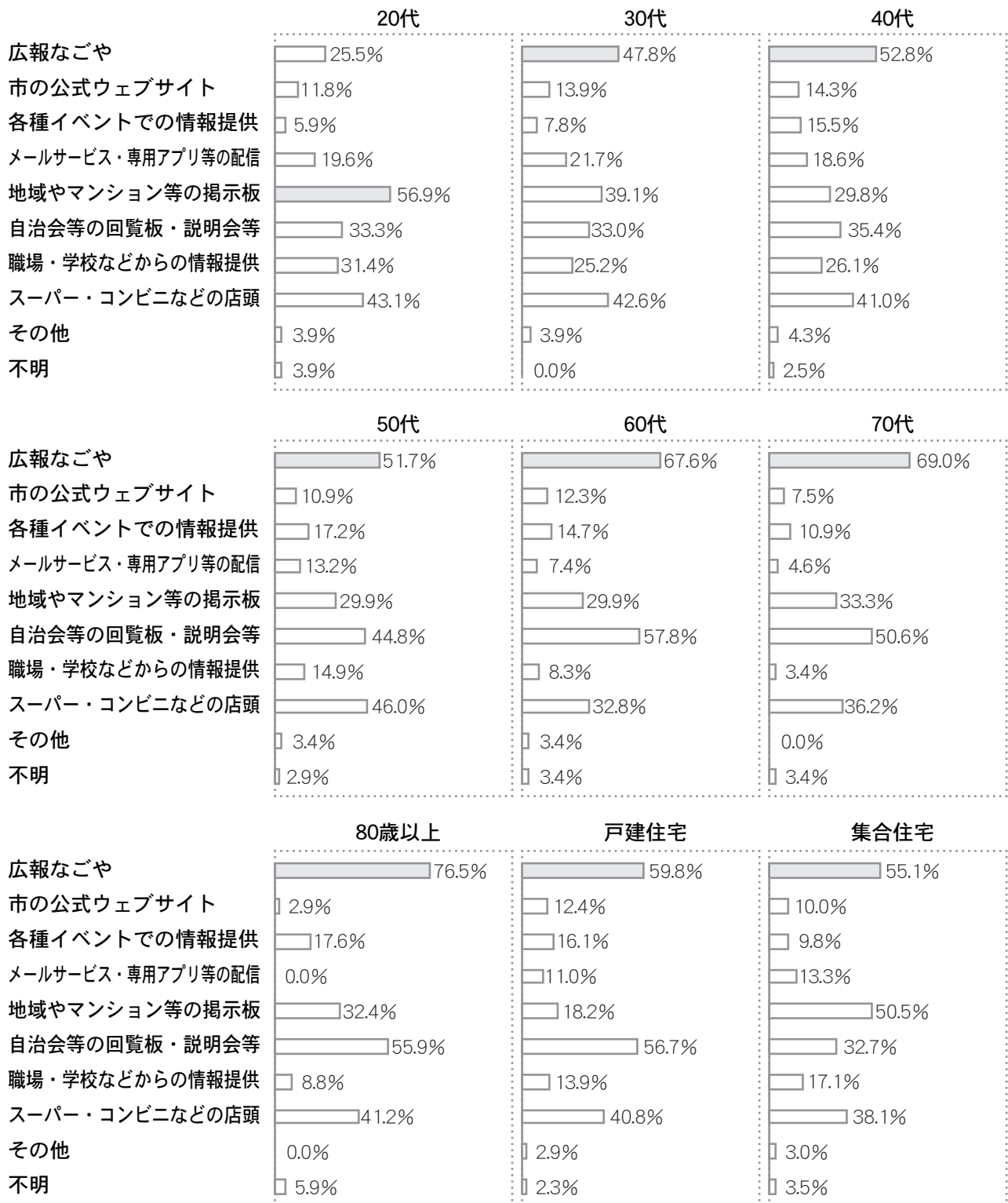


⑨市から提供される情報について N=916

■どのような情報があれば、ごみの減量・分別に取り組みやすい、あるいは取り組みもうと思いますか。(重要だと思うものを3つまで○)

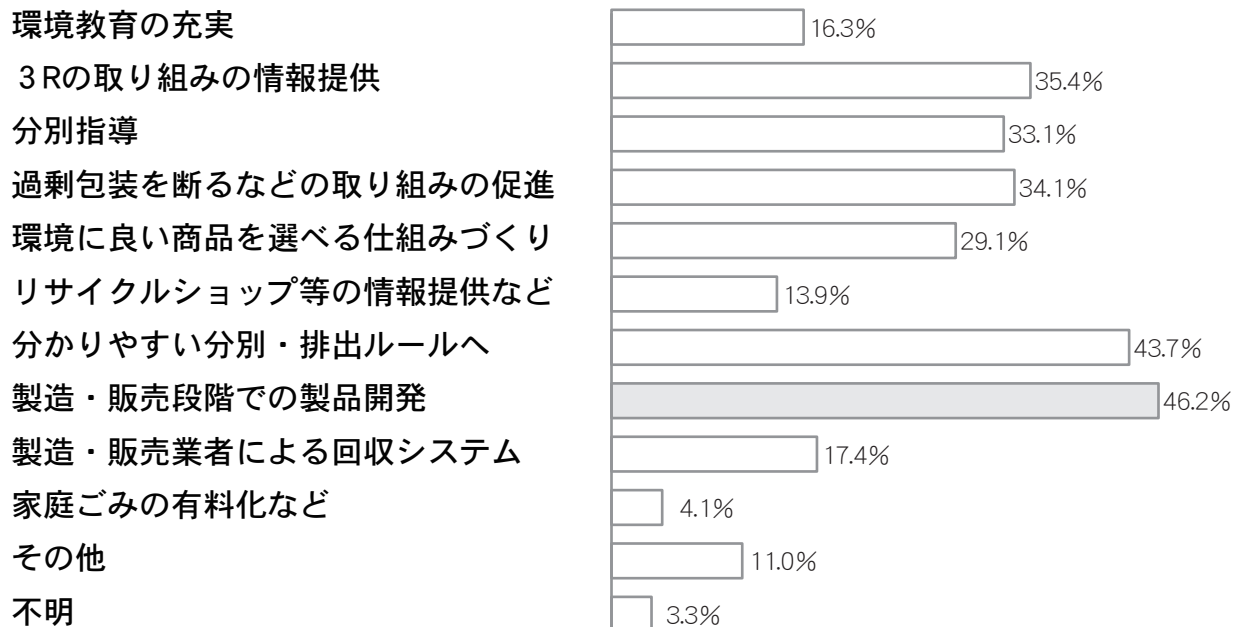


■ごみを減量、分別するに当たり、どのような情報源が充実するとよいと思いますか。(重要だと思うものを3つまで○)



⑩ごみを減らす取り組みについて N=916

■今後、さらにごみを減らすために、どのような取り組みが重要だと思われますか。
(1～11の中から重要だと思うものを3つまで○)



2 保健環境委員アンケート実施結果

(1) アンケートの概要

項 目	内 容
目 的	第5次一般廃棄物処理基本計画策定に向けた保健環境委員意見の把握
調 査 対 象	各学区保健環境委員会会長
調 査 期 間	平成27年6月～平成27年7月
調 査 方 法	保健委員会による配布、郵送等による回収
回 収 状 況	配布数 266人 有効回収数 244人

(2) アンケート実施結果

①ごみを減らすための取り組みについて N=244

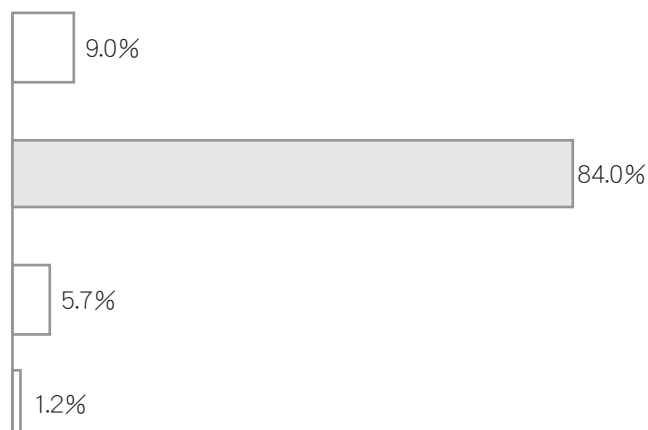
■「ごみ非常事態宣言」以降、本市が取り組んできた、ごみを減らすための取り組みについて、あなたはどのようにお考えですか。（お考えに最も近いもの1つに○をつけてください）

市民の協力により継続して
成果が上がっている

大きな成果を上げたが、最近では市民の
ごみ問題への関心が薄れてきており、
もう一度ごみ減量の意義を訴えていく
必要がある

まだまだ不十分である

わからない



■これまでの地域におけるごみの減量、分別・リサイクルの取り組みの中で、苦勞されていることなどをお聞かせください。（主なものに3つまで○をつけてください）

資源集積場所における住民への指導

分別が出来ていないごみ・資源の分別し直し

排出マナーに対する指導

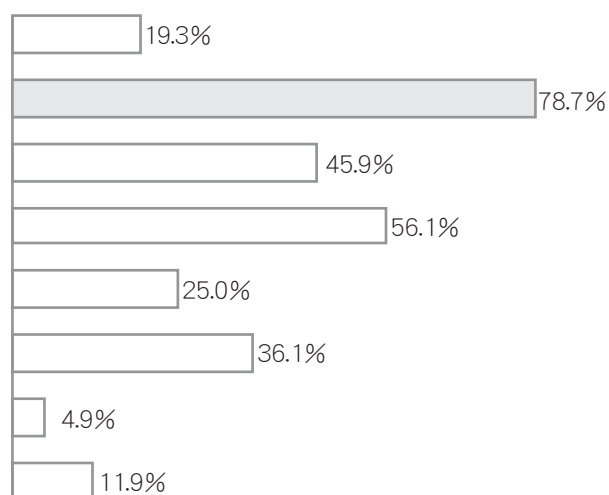
収集時間外に出されたごみ・資源の片づけ

共同住宅における住民への指導

カラスによるごみ散乱防止の対策

集団資源回収の実施

その他

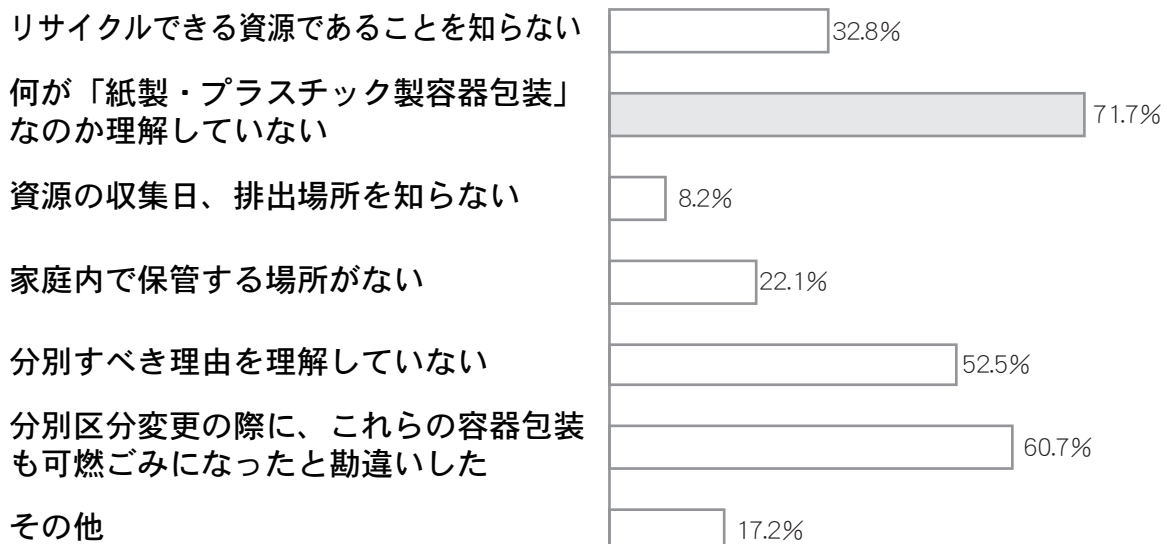


<その他の主な意見>

- ・資源ステーションへのごみ、プラ容器の持ち込み、不法投棄。
- ・資源ステーションでの分別のし直し（特にびん・缶の飲み残し、異物混入）。
- ・指導に対する無視・反発。
- ・粗大ごみの不法投棄。
- ・外国人に対する指導。

②分別について N=244

■市が収集している資源の中で、最近、特にプラスチック製・紙製容器包装がごみとして出される割合が多くなっていることについてお聞きします。分別率が低下している（ごみへの混入が多くなっている）ことについて、どのようなことが原因と考えられますか。（考えに近いものに3つまで○をつけてください）



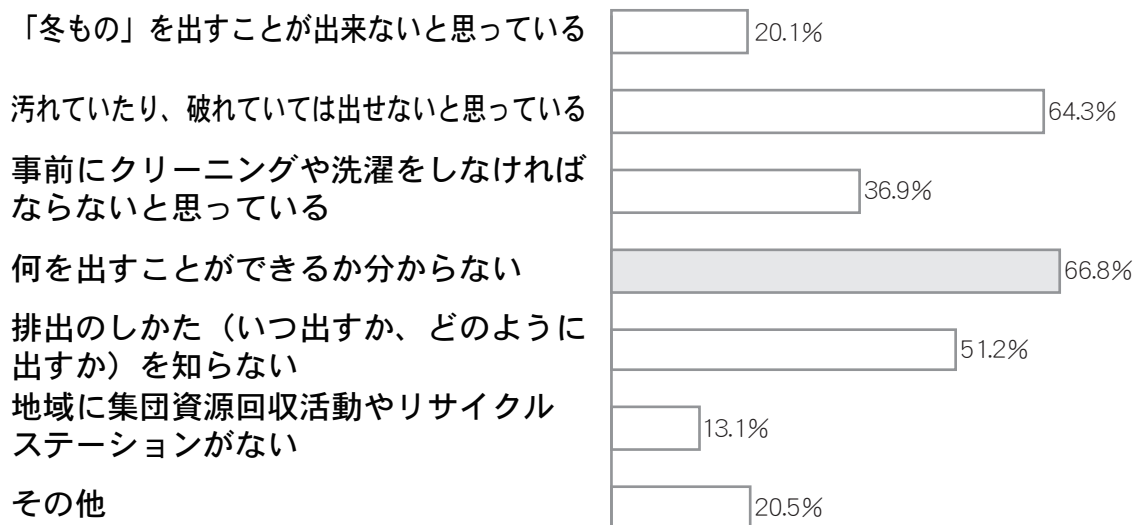
<その他の主な意見>

- ・分別が面倒だと感じる人が多くなった。
- ・高齢者が細かい分別が理解できない。
- ・マンション管理会社から入居者への説明が不十分である。
- ・理解しようと努力するのではなく、思い込みだけで排出する。
- ・資源の品目ごとの指定袋があった方がよい。
- ・プラ・不燃・可燃ごみ全て入っていても収集される。
もう一度厳しくシールを貼るなどして取り残してもよいと思う。
- ・分別方法がよく変更されるから、どちらでもいいとってしまう。
- ・容器によってきれいに洗にくいものは可燃で出す方が処理しやすい。

③古着・古布の資源化について N=244

■「古着・古布」は、「古布」のうち布団や座布団など中に「わた」が詰まっているもの以外は資源化できるため、何でも集団資源回収やリサイクルステーションなどにお出しいただけます。

しかしながら、古着・古布は排出量全体の約1割しか資源化されておらず、市民の皆さんにご理解いただけていない点が、まだまだ多いのではないかと考えていますが、このことについて、どのようなことが原因であると思われますか。（原因であると思われるもの全てに○をつけてください。）

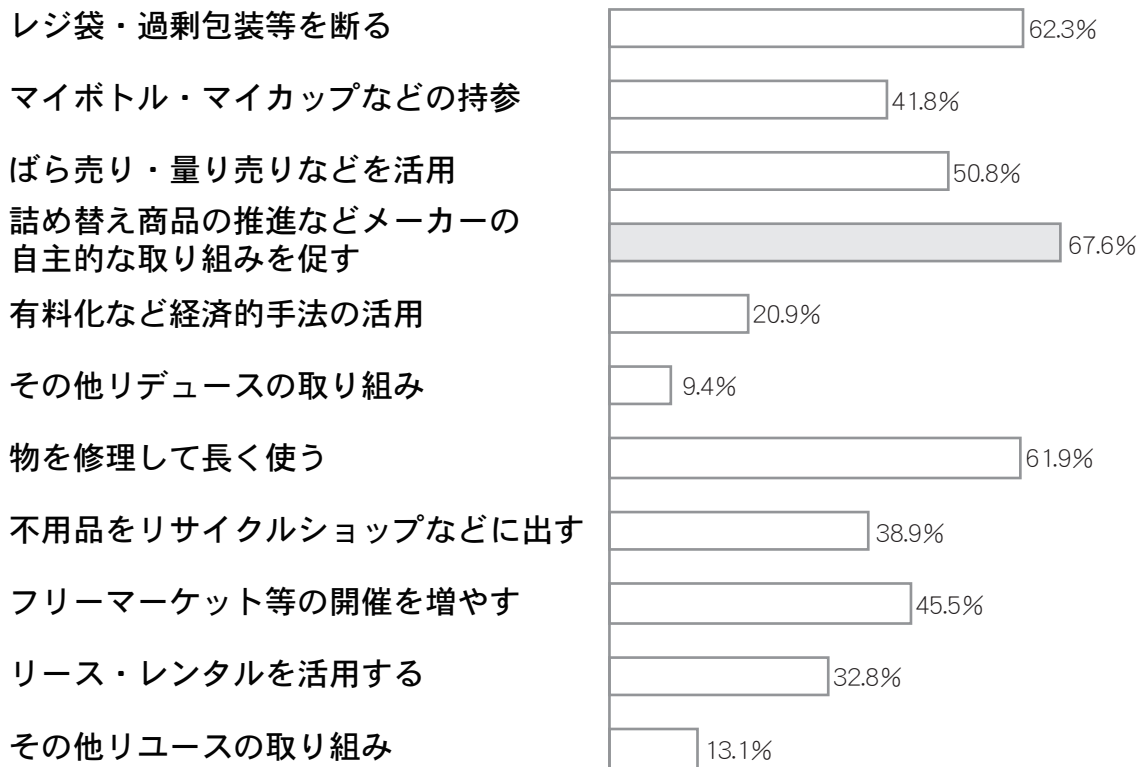


<その他の主な意見>

- ・古着・古布を出せる回数（月一回）が少ない。
- ・自分が着ていたものをリサイクルに出すのは抵抗がある。
- ・可燃で出すと楽。少量だと可燃にいれてしまう。
- ・集積場所に出しておく中身をあげられることがある。
- ・回収業者が持って行ってくれない、出すのを控えるように言われる。
- ・古着や古布がどのように利用されているかよく分からないから。
- ・古着などは、お店で引取りしてくれる所が増えている。
- ・歳をとると、細かい分類方法は出来なくなる。
- ・古着・古布を出す袋は、資源袋以外は非か問い合わせ有り。
- ・環境局等PR不足等。
- ・住民の高齢化が進み、リサイクルステーションまで持っていけない。

④ 2R（リデュース・リユース）の取り組みについて N=244

■さらなるごみ減量を推進するためには、「分別・リサイクル」にあわせ、「ごみも資源も元から減らす」発生抑制（リデュース）や再使用（リユース）」の取り組みも進める必要がありますが、そのためにはどのような取り組みが重要だと思われますか？（重要だと思われるもの全てに○をつけてください。）



<その他（リデュースの取り組み）の主な意見>

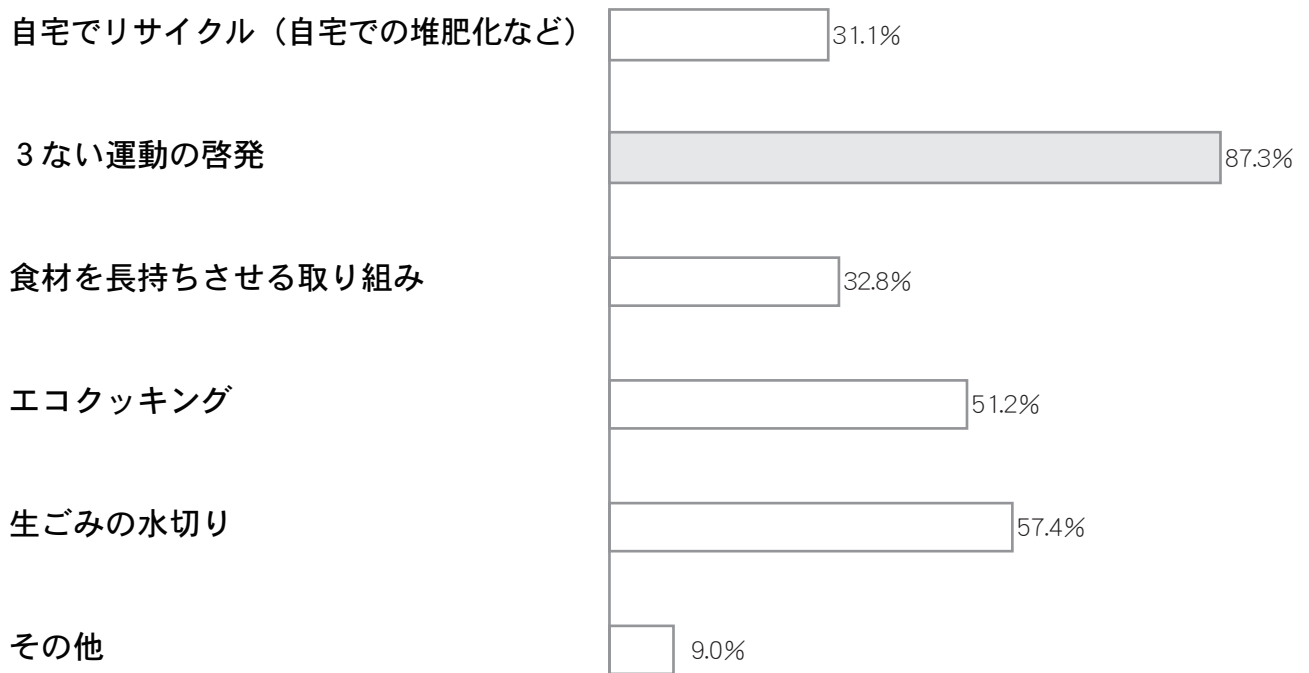
- ・メーカー側への指導、メーカーのリデュース意識。
- ・トレーに乗せずに、真空パックなどを用いて販売。
- ・空容器を持参すると、返金されるなどの制度。
- ・ポストイングチラシの規制。

<その他（リユースの取り組み）の主な意見>

- ・修理費用を安くする、部品の長期保管など、修理しやすい環境づくり。
- ・多少高価でも丈夫な製品を。
- ・販売店もさることながら、製造元にも協力を促す。
- ・環境バザー、フリーマーケットなどの開催情報の充実。
- ・子ども用品（洋服・ベビー用品・三輪車等）の交換会。
- ・粗大ごみで出る家具類の中には、修理しなくても使える家具がある。有効に活用すべき。

⑤生ごみの減量について N=244

■家庭から出される可燃ごみの約1/3は、生ごみが占めています。生ごみを減らすために、どのような取り組みが重要だと思われますか。（お考えに近いものに3つまで○をつけてください。）

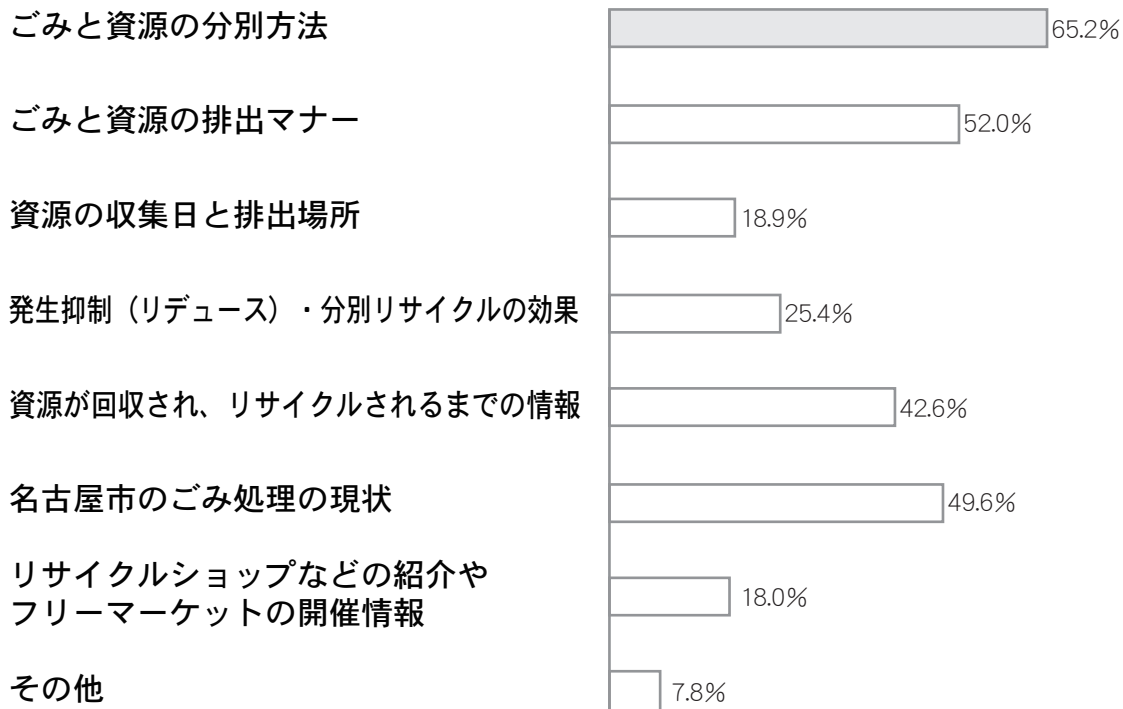


<その他の主な意見>

- ・食品の賞味期限を長くする。
- ・地域での堆肥化の取り組み。
- ・「デスポーザー」の普及を行政的に進める。
- ・低コスト・家庭ごみ処理機などの開発。
- ・1人用食材を売る。

⑥市民に提供する情報について N=244

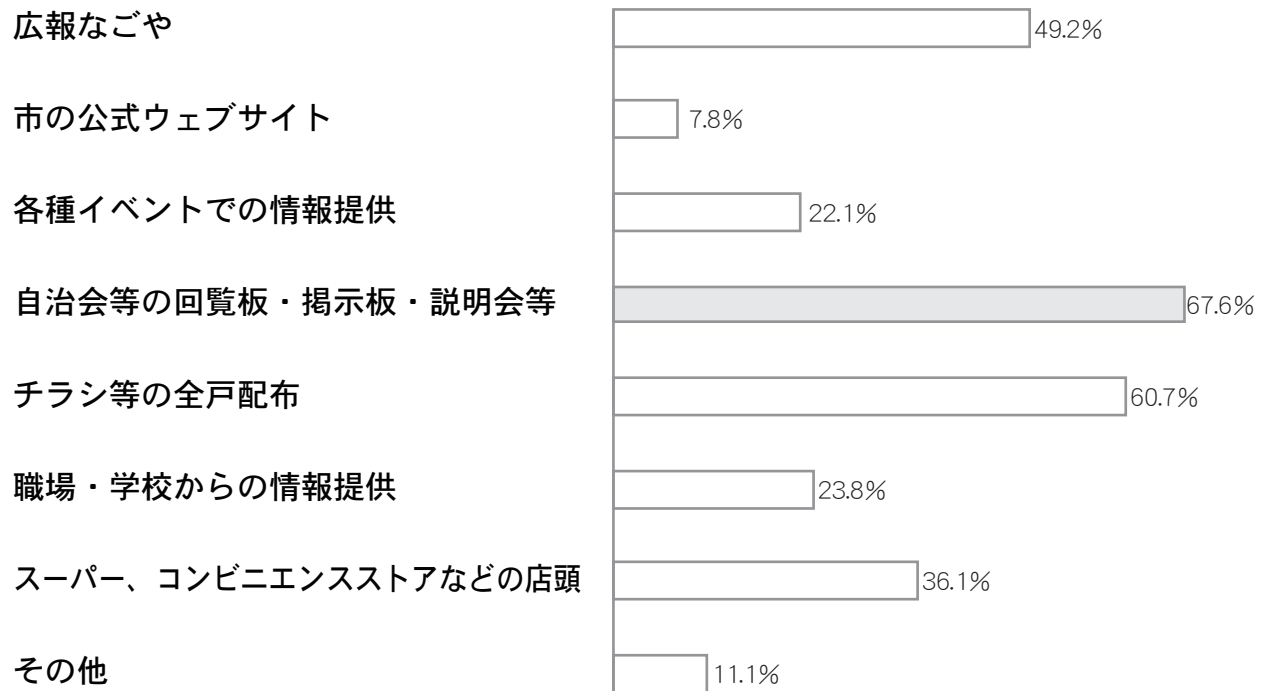
■ごみの減量、分別・リサイクルに取り組んでいただくために、市から市民の皆さんに提供する情報として、どのような情報が重要だと思われますか。（お考えに近いものに3つまで○をつけてください。）



<その他の主な意見>

- ・転居してきた方や海外の方などにも分かりやすい資料。
- ・処理場の見学。
- ・処理費は各自の税金によって支払っていることを知るべき。
- ・環境教育。

■ごみの減量、分別・リサイクルに取り組むにあたり、情報源として充実させた方がよいと思われるものは何ですか。（お考えに最も近いものに3つまで○をつけてください。）



<その他の主な意見>

- ・新聞・テレビで取り上げてもらう。
- ・対象（高齢者、外国人等）・居住形態（一戸建て、共同住宅）にも気を配った、分かりやすく、目で見えすぐに頭に入るようなチラシ。
- ・転入者への丁寧な説明。

⑦その他

○その他、日頃、地域でご苦労されている点や、市へのご要望などをお聞かせください。（自由記述）

<資源とごみの分別について>

- ・可燃ごみ、資源の袋に、分別品目以外のものが入っていることが多い。
- ・平成23年4月の分別区分変更の内容（「容器包装以外のプラスチック製品は可燃ごみ」「不燃ごみ収集は月1回」「プラスチック製容器包装は各戸収集」）に関する広報の徹底が必要。
- ・分別を守っている人も多いが、全く分別されていない袋も多くあり、これらの排出者に対する啓発が難しい。
- ・古着・古布のリサイクルはまだ市民に理解されていないので、もっと周知・説明が必要。
- ・紙・プラ製容器包装について、資源として出しても問題ない汚れの基準が分かりにくい。
- ・製品に2種類の容器包装の表示があると、どちらに出してよいか分からず、ごみとして出される可能性がある。分かりやすく改善すべき。
- ・他都市においては、分別違反者に対する過料や、ごみの中身のチェックなどが実施されている。ルール違反者にはしかるべき対応が必要。
- ・名古屋市は分別が多すぎる。簡素化したほうがよい。

<排出マナーについて>

- ・資源の収集後（収集時間外）に、ステーションに排出する人がいて困っている。
- ・各戸収集のごみやプラスチック製容器包装が、ステーションに出されて困っている。
- ・空きびん（または空き缶）のかごの中に、空きびん以外のガラス製品を入れる、ふた付きで入れる、袋に入れたまま入れるなどの事例が多く困っている。
- ・ペットボトルのふたが付いたまま出される、缶やペットボトルの中にタバコの吸い殻などが入れられる事例が多く困っている。
- ・発火性危険物の収集方法が徹底されていない。穴あけルールについて、早期に決定を。

＜集合住宅、単身者、外国人、高齢者、転入者などの対策について＞

- ・アパート、ワンルームマンションの住人で若い世代の分別意識が低い。オーナー及び管理者が責任を持って居住者に説明し適切に管理できるよう、周知徹底・指導すべき。
- ・転入者がごみの出し方を知らない。住民票提出の際に十分説明してほしい。
- ・転出者が不用品を分別せずに大量に出す。ルール of 徹底をしてほしい。
- ・外国人や高齢者の一人暮らしの方は、説明しても分かってもらえない。
- ・特にアパート、（ワンルーム）マンションの住人で若い世代の分別意識が薄い。

＜資源ステーションの管理等について＞

- ・毎週、未分別のごみを保健環境委員が分別し直している。
- ・清掃・整理など、ステーションの維持管理に苦勞している（町内当番制を行っているところもあり）。
- ・ステーションの看板が劣化し表示が見えないところが多い。定期的な取り替えをお願いしたい。
- ・住宅の密集化によりステーションの設置が難しくなっている。ステーションの減少がトラブルの元になっている。改善できないか。
- ・空き缶を持ち去るホームレスや業者が後を絶たない。ステーションを散らかしていくので、対策を望む。
- ・カラス、猫による被害に困っている。ネット等の対策が必要。

＜不法投棄・ポイ捨てについて＞

- ・不法投棄・ポイ捨てに大変困っている。不法投棄をした人の名が分かったときは、注意だけで済まらず、少額でも良いから罰金を取るようにすること。

＜2Rについて＞

- ・レジ袋は、無料だと安易に要求する人が多い。有料化店舗でのレジ袋は減ったが、無料配布の店舗や無料のポリ袋は、減っていないのではないか。
- ・「マイバッグ持参運動」を進める際には、万引きの増加に繋がらぬよう注意すべき。
- ・マイボトルを持参して購入した場合、ポイントがたまる制度が出来ないか。
- ・行政がリサイクルショップとのパイプ役をしてくれるとありがたい。行政からの紹介なら安心感がある。
- ・ごみ・資源を元から減らす取り組みは、企業が率先して進めるべき。

＜環境教育について＞

- ・幼稚園、保育園、小学生のうちに、ごみの分別・マナーをしっかりと伝えることが必要。

＜広報について＞

- ・分別ガイド等の全戸配布をしてほしい。
- ・地元の集会などに出向き、ごみ減量・分別についての説明・協力依頼などを行いながら、併せて地元の意見や要望を聴く機会を設定してはどうか。
- ・資源・ごみ分別アプリについて、特に若者に対してもっとPRすべき。
- ・広報なごやで、四半期に1回、1ページを使って大々的に広報してはどうか。
- ・3Rについてテレビや町内の掲示板を活用した広報をしてはどうか。
- ・なぜ分別が必要なのか、リサイクルされて何に再商品化されるか、埋立処分場の残余年数の現状など、今までとは違うアピールの仕方での広報が必要。

＜市の収集作業等について＞

- ・収集時間をできるだけ一定にしてほしい。ステーションの後片付けに困るので、各品目を出来るだけ同じ時間に収集するようにしてほしい。
- ・不法投棄防止のため、空きびん（又は空き缶）のかごは伏せて設置してほしい。
- ・ステーションにおいて分別されていない袋を取り残すのは、あまり意味がないのではないか。
- ・可燃ごみ、不燃ごみで分別されていない袋は、取り残しなどの対策をもっと厳しく行うべき。
- ・資源は当面、半透明・透明袋でもよいことになっているが、資源袋に統一してほしい。
- ・資源ステーションによる分別をやめ、全て各戸回収とする。
- ・家庭ごみ処理の有料化など経済的手法の活用を検討する。

＜保健環境委員制度について＞

- ・任期終了後の後任がなかなか決まらないことに悩んでいる。
- ・地域の皆さまが一度は委員になり、環境に関する意識を高めることが重要だと思う。
- ・保健環境委員の社会的なイメージを高めていくことが必要。
- ・「費用弁償があるのだから仕事をやるのが当然」と思われるのがつらい。また、報酬額も少ないと思う。

3 事業者アンケート実施結果

(1) アンケートの概要

項 目	内 容
目 的	第5次一般廃棄物処理基本計画策定に向け、中小企業の事業系一般廃棄物の排出実態を把握
調査対象業種及び抽出数	<p>1,000事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設業 従業員数300人以下の事業所 72事業所 ・製造業 従業員数300人以下の事業所 93事業所 ・情報通信業 従業員数300人以下の事業所 20事業所 ・運輸業、郵便業 従業員数300人以下の事業所 19事業所 ・卸売業 従業員数100人以下の事業所 114事業所 ・小売業 従業員数 50人以下の事業所 155事業所 ・金融業、保険業 従業員数300人以下の事業所 18事業所 ・不動産業、物品賃貸業 従業員数300人以下の事業所 69事業所 ・学術研究、専門・技術サービス業 従業員数100人以下の事業所 56事業所 ・宿泊業、飲食サービス業 従業員数100人以下の事業所 150事業所 ・生活関連サービス業、娯楽業 従業員数100人以下の事業所 78事業所 ・教育、学習支援業 従業員数300人以下の事業所 31事業所 ・医療・福祉 従業員数300人以下の事業所 61事業所 ・複合サービス業 従業員数100人以下の事業所 3事業所 ・サービス業(他に分類されないもの) 従業員数100人以下の事業所 61事業所
対 象 地 域	名古屋市内
調 査 方 法	全業種とも無作為抽出とする
調 査 期 間	平成27年6月24日(水)～平成27年7月8日(水)
回 収 状 況	<p>配布数: 1,000事業所 有効回収数: 327</p> <p>有効回収率: 32.7%</p>

(2) 標本構成

事業形態	オフィス 118	小売店舗 54	飲食店 37	病院・ 福祉施設 21	工場 35	その他 47	不明 9
			学校1	ホテル・旅館1 文化・娯楽施設4			

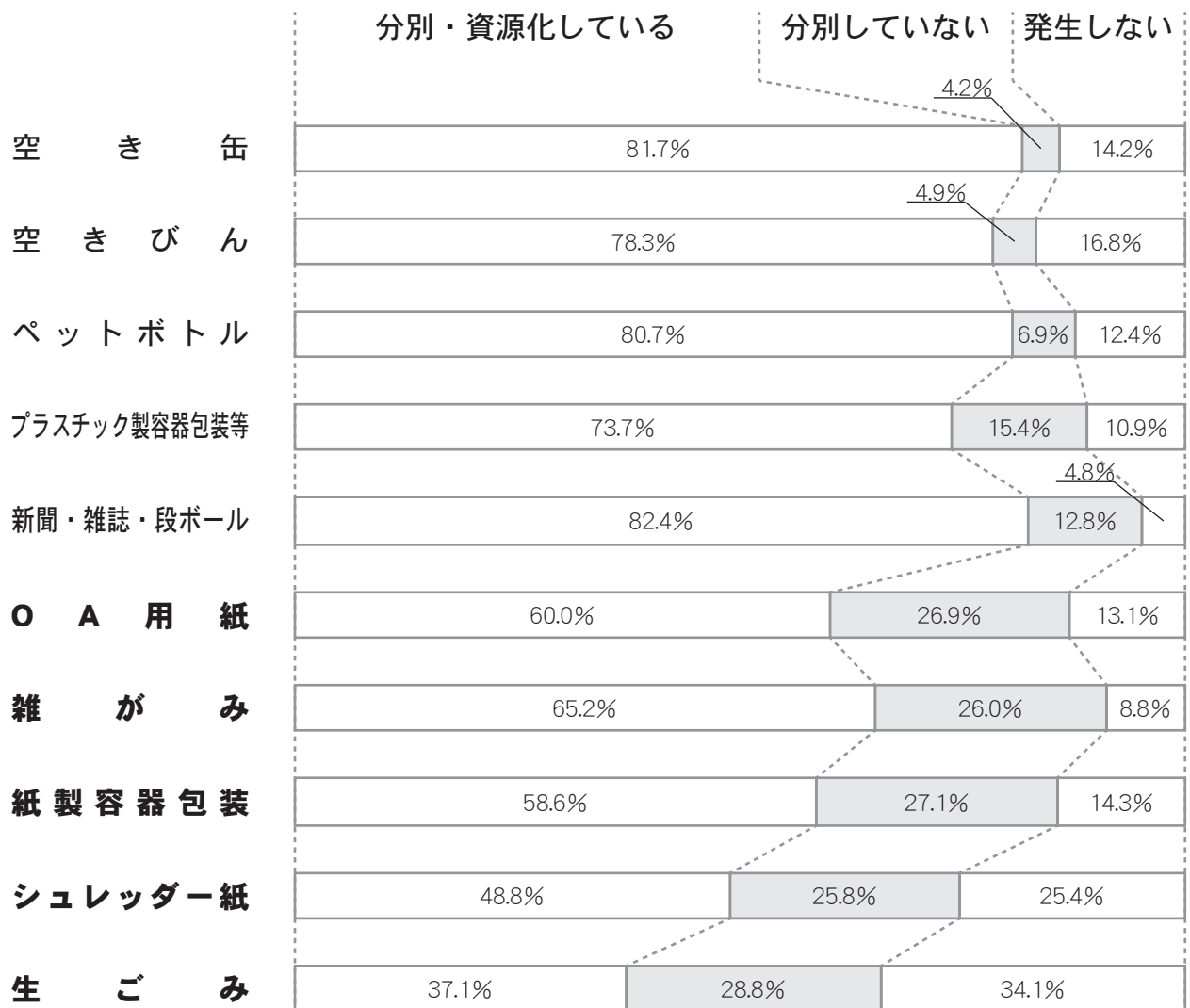
ビル等入居形態	テナントとしてビル等に入居 125	自社の建物または単独で建物を賃借 160	不明 42
---------	----------------------	-------------------------	----------

延べ床面積 について	分かる 173	分からない 128	不明 26
---------------	------------	--------------	----------

延べ床面積	～100㎡未満 81	100㎡以上300㎡未満 50	300㎡以上 ～500㎡未満 17	500㎡以上～1000㎡未満 9	1000㎡以上～3000㎡未満 7	3000㎡以上 9

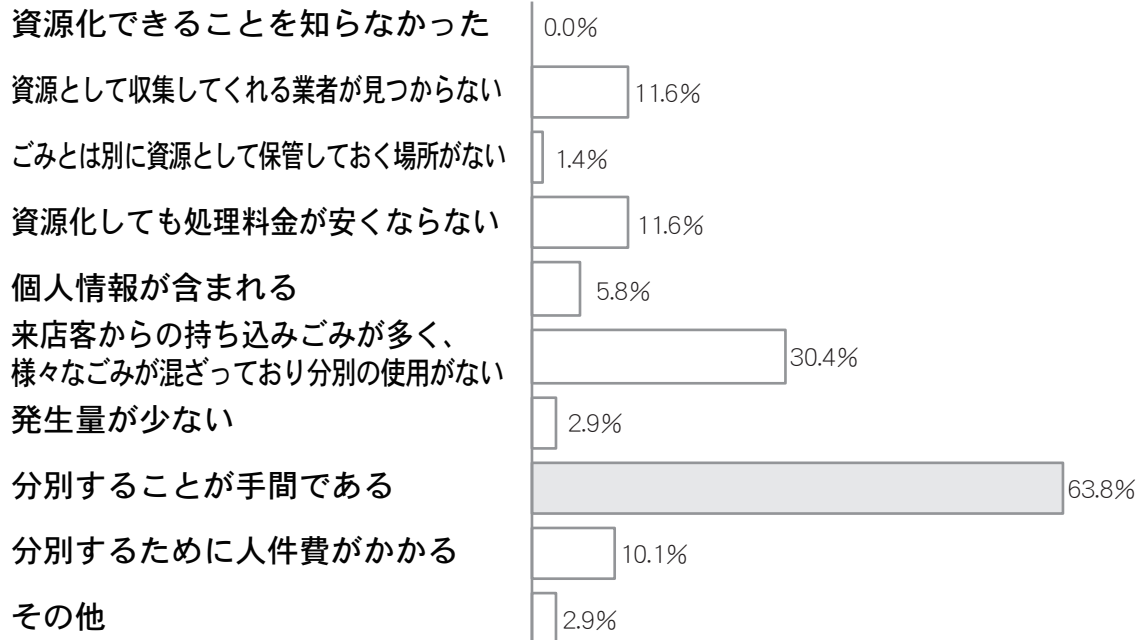
従業員数	1人から29人 276		不明
	0人 7	30人～99人 22	100人～299人 1 300人～999人 2 1000人以上 1

①ごみ・資源の分別状況について N=327

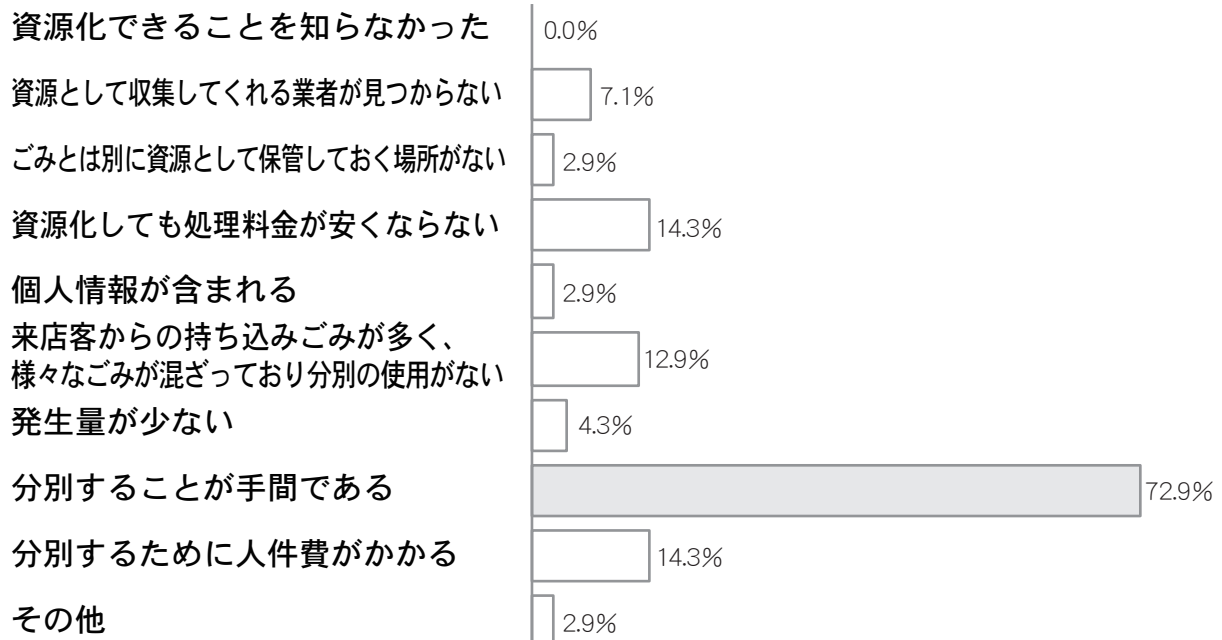


②古紙類について分別していない理由

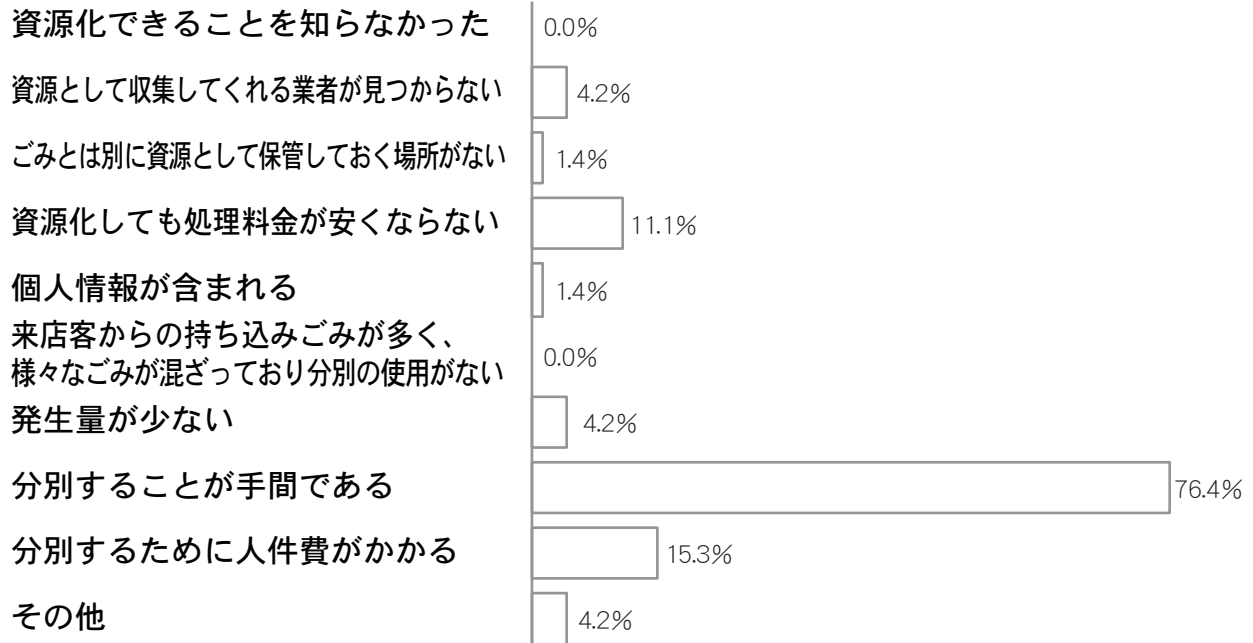
＜OA用紙＞ N=69



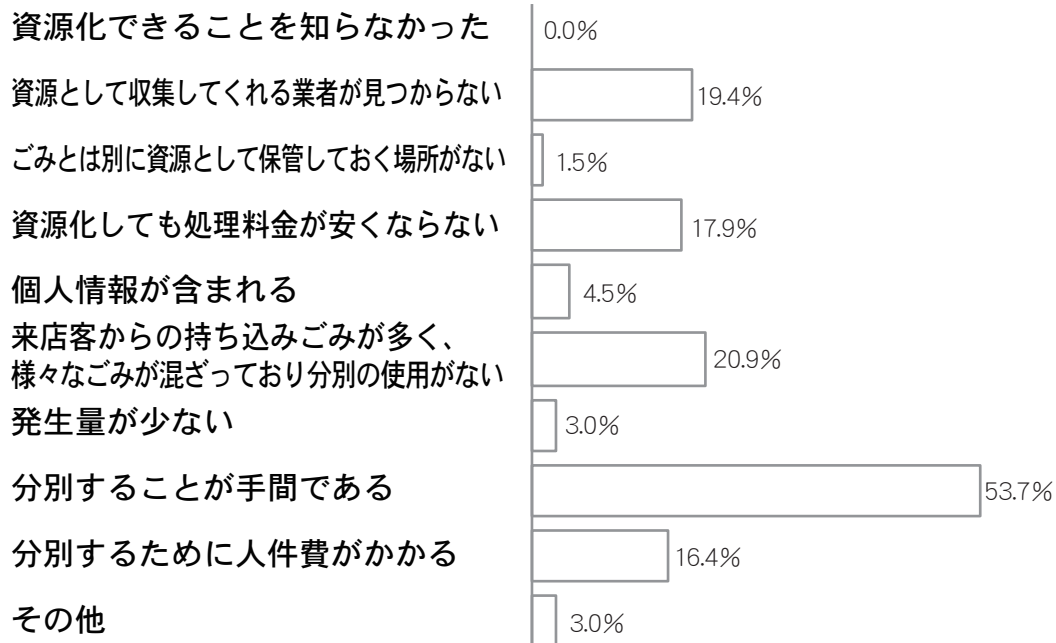
＜雑がみ＞ N=70



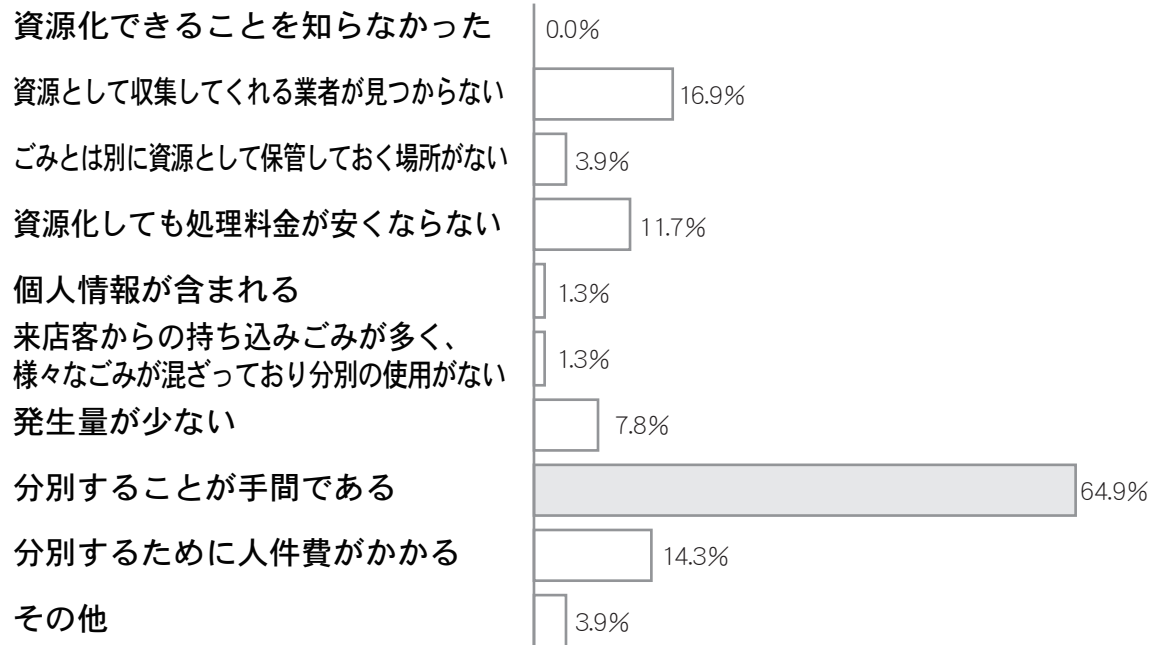
＜紙製容器包装＞ N=72



＜シュレッダー紙＞ N=67

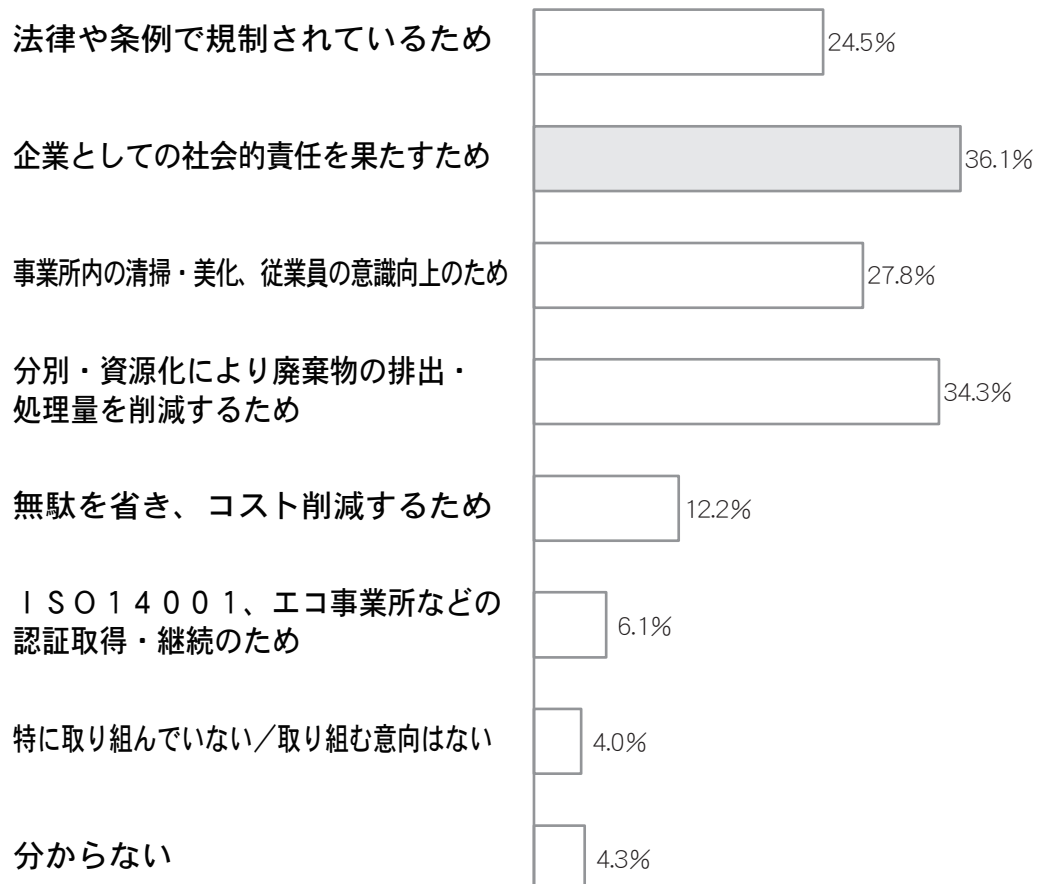


③生ごみについて分別していない理由 N=77

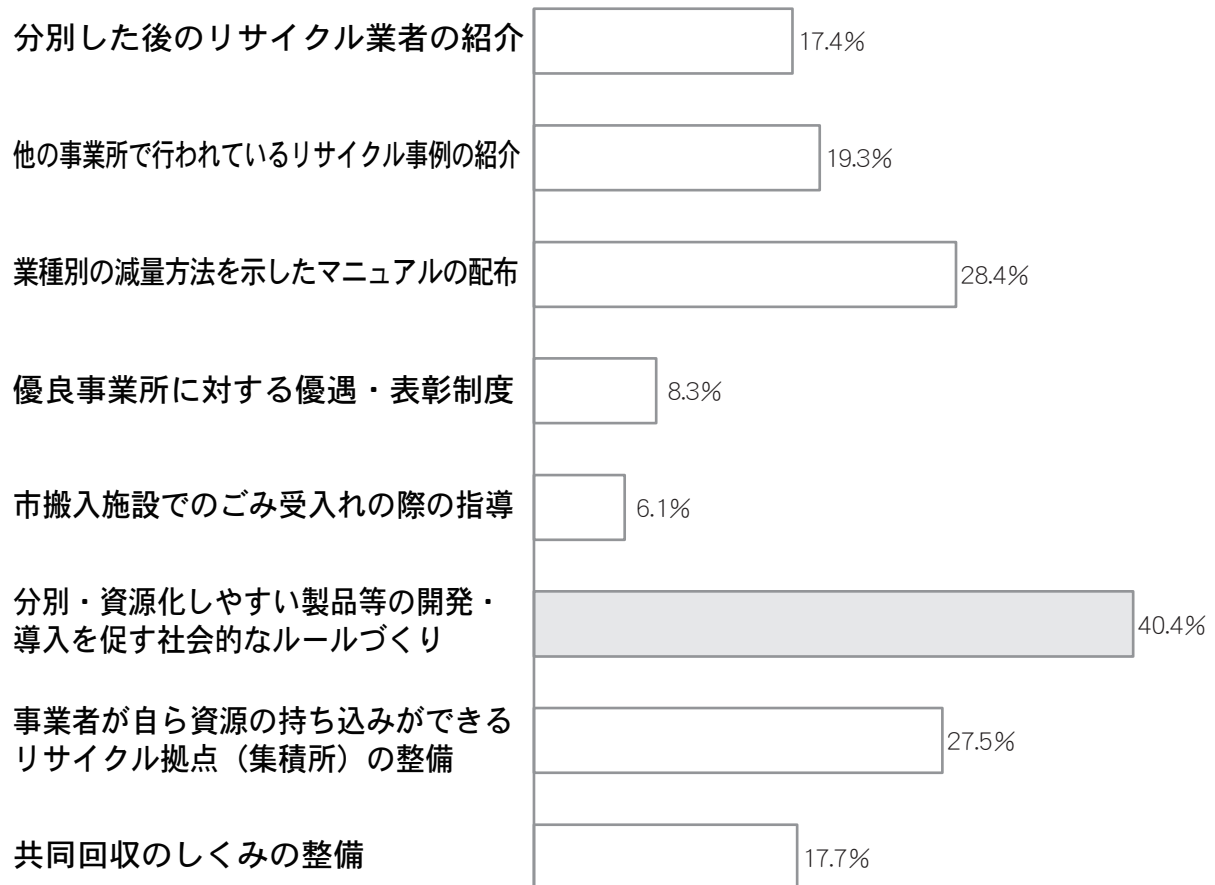


④ごみの減量・資源化の動機・方策 N=327

■あなたの事業所が、ごみ減量・資源化に取り組んでいる理由は何ですか？
(該当すると思われるもの2つまでに○)



■事業者が、さらなるごみ減量や資源化に取り組んでいくために有効と思われる方策は何ですか？
 （重要と思われるもの3つまでに○）



1 分別ワークショップ実施結果

(1) ワークショップの概要

項 目	内 容
目 的	名古屋市の情報がうまく届いていないと思われる方々に対して、どのような広報手段、広報ツールを用いればよいか、実際にごみを出している方々と一緒に考えていくためワークショップを開催
参 加 者	①一人暮らしの学生：8名 ②外国人：9名 ③一人暮らしの市民：8名
実 施 日 時	平成27年3月16日 13:30～16:00
進 行 役 等	①全体進行役 : 千頭 聡(日本福祉大学教授) ②グループ進行役 : 浅井 久美(環境カウンセラー) 浜口 美穂(3R推進マイスター) ③コメンテーター : 伊藤 光弘(イベントプランナー) 宇佐見 孝(愛知中小企業家同友会 理事・報道部長) 樋口 浩司((株)電通名鉄コミュニケーションズ)
内 容	①名古屋市のごみ処理の現状 ごみ処理に費用がかかること及び埋立処分場の問題を説明 ②ワークショップ グループごとに分かれ意見を出し合った後、全体で意見交換 ・ごみ出しの実態について ・市からの情報提供に対する意見と分別を推進するためのアイデアについて

(2) ワークショップ実施結果

①一人暮らしの学生の主な意見

内 容	意 見
ごみ出しの実態について	<ul style="list-style-type: none">○分別が細かく面倒、苦手○朝起きられない○ペットボトルや空き缶は量が少なく、大きな袋に溜まるほどではないので、可燃ごみで出してしまう
市からの情報提供について	<ul style="list-style-type: none">○学生向けには、学校から情報が提供されるといい○仮にSNS等で情報が流れてきても、興味がない人は見ない○ポスターでは、訴えとして弱い
分別を推進するためのアイデア	<ul style="list-style-type: none">○ごみ捨て場に、具体的に種類ごとに区分して表示があると分かりやすい○学校で、講習を実施することを義務付ける○入居者への説明を、管理会社に徹底させる○転入時に役所に行く際、資料を配布するだけでなく説明の時間を設ける○処理費の削減効果等の情報提供○袋に名前を記入する

<グループワークの様子>



②外国人の主な意見

内 容	意 見
ごみ出しの実態について	<ul style="list-style-type: none"> ○ビン・缶の分別は分かり易いが、菓子袋などは分別するべきか分からない ○自国では分別しておらず、全て焼いていた
市からの情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> ○分別するための情報が大雑把で分かりにくい ○情報はマンションの掲示板やごみ捨て場に掲示されている ○大家さん、管理人に教えてもらったこともある ○広報などは日本語のみで分からない人もいる ○資料だけではなく説明が必要
分別を推進するためのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ○商品に分別の仕方を記すなど分かるようにすべき ○転入時に、運転免許更新時のような講習を受けさせるようにする ○分別する理由や良さを知らせる ○外国人の勤め先等でレクチャー ○住宅を斡旋する不動産業者を通じたレクチャー ○違反者にはペナルティを課す ○収集場所を分かり易く知らせる ○「費用のため」、「処分場の逼迫」ではなく、「環境のため」が、始めに来るのが大事

<グループワークの様子>



③一人暮らしの市民の意見

内 容	意 見
ごみ出しの実態について	<ul style="list-style-type: none"> ○出す場所がわからないので、スーパー等の拠点回収に持ち込んでいる ○菓子容器、弁当容器等はすべて燃えるごみに出している
市からの情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> ○どこに捨てるか／どう分けるかの情報がない ○苦勞して分別したものは、本当に資源化されているのか
分別を推進するためのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ○動機付けにつながる情報があるとよい ○LINEで強制的に情報を流す ○広報用のポスターはコンビニやスーパー等の不特定多数が立ち寄る場所に目立つように貼る ○コンビニやスーパーでの啓発イベントも有効 ○分別、不法投棄、ポイ捨てに対するペナルティ

<グループワークの様子>



④コメントーターの意見

内 容	意 見
ごみ出しの実態について	○情報は発信しているが届かない／伝わらない。 ○生活者に合わせた広報が必要。 ○ツールはあるが、伝える方法が大切(場所とタイミング) ○「なぜ分別が必要か」が伝わっていないので、そこを広報する必要がある
市からの情報提供について	
分別を推進するためのアイデア	

<全体ワークの様子>



2 2Rワークショップ実施結果

(1) ワークショップの概要

項 目	内 容
目 的	消費者の「買物を通して社会を変える」役割に注目し、本市が現在行っている2R施策、他都市で行われている優良事例等をテーマに、消費者目線からの意見・課題を抽出するためのワークショップを開催する。
参 加 者	① 学生:7名 ② 一般人(主婦):6名 ③ 3R活動に取り組む市民団体:6名
実 施 日 時	平成27年6月29日 18:30~20:30
進 行 役 等	①全体進行役 :千頭 聡(日本福祉大学教授) ②グループ進行役 :浜口 美穂(3R推進マイスター) 松野 正太郎 (名古屋大学大学院環境学研究科 特任講師)
内 容	①マイボトル・マイカップの取り組みについて マイボトル・マイカップ拡大のための課題・展開方法等 について議論 ②減装(へらそう)ショッピングの取り組みについて 減装ショッピングを名古屋市で実施するためにはど うすればよいか、その方法や課題等について議論

(2) ワークショップ実施結果

①マイボトル・マイカップの取り組みについての主な意見

内 容	意 見
マイボトルを使用しない理由	<ul style="list-style-type: none">○マイボトルは重くかさばる○使った後のマイボトルを洗うのが面倒○お店でマイボトルを使うことが恥ずかしい○空になったボトルがジヤマ○ボトルの容量が足りない○安価なペットボトルを購入することに慣れている
マイボトル使用者を増やすための課題	<ul style="list-style-type: none">○マイカップのレンタル○「マイボトルはお洒落」というイメージ作り○カフェなどでマイボトルに飲み物を入れてもらえること自体を知らない○マイボトルが経済的であることを知らない
課題への対応	<ul style="list-style-type: none">○コンビニや大学の学食等で、マイカップ対応給茶器を設置。マイカップ・マイボトル<備え付けのカップと価格設定し、消費者に選択させる。○デザインを重視したマイボトルの普及・PR○ペットボトルは環境負荷が高い(石油で出来ている)ことをPR○アイドル等を活用する等、マイボトルのイメージアップ○マイボトルへの飲料提供店の拡大○マイボトルは「経済的」「値引きあり」をPR○スーパー・コンビニエンスストア等を活用した広報○無料給水スポットの充実(人が集まるところに設置)

<グループワークの様子>



②減装（へらそう）ショッピングの取り組みについての主な意見

内 容	意 見
消費者の選択行動	<ul style="list-style-type: none"> ○商品購入基準は、「値段」と「欲しいもの」 ○中身が同じで包装だけが違うなら、エコを選択 ○包装が少ない方がごみも減るのでありがたい ○買物時「環境ラベル」は気にしない
消費者行動を変えるための課題	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者に、「ごみが減る」ことをPR ○「エコはカッコいい」というイメージ作り ○小さなPOPでは見てもらえないが、大きくすると、陳列スペース上問題 ○次々投入される新商品に対して、ラベリング認定が追いつかない ○商品が多様化しており、一律に「減装」の基準を設けることは困難 ○消費者にも企業にもメリットがある方法であることが大切
課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージ・内容を訴える ○共通のポスター等を作成し、PRに活用 ○陳列棚にPOP付ける方法は店舗の負担が大きく困難 ○また、POPは目立たないため、店舗内に「減装」商品コーナーを設置する ○リデュースに積極的に取り組む企業が評価される仕組みづくり(エコ事業所認定制度の拡充等)

<グループワークの様子>



中小事業者ヒアリング実施結果

(1) ヒアリングの概要

項 目	内 容	
目 的	中小規模事業所における一般廃棄物の発生・分別の実態と課題を把握し、平成27年度に実施するアンケートの調査内容に反映させるため、11事業所に対し、訪問ヒアリングを実施	
対 象 事 業 所	オフィス	設計事務所 流通アウトソーシング 会計事務所 食品卸売業
	病院 福祉施設	病院 特別養護老人ホーム
	店舗	米販売店 食品スーパー コンビニエンスストア3社 (日本フランチャイズチェーン協会からの紹介で本社を訪問)
内 容	ごみなどの排出実態について	

(2) ヒアリング実施結果

①排出実態について

事業所	内容
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ○一度に少量の資源しかでず、それを資源収集業者に取りに来てもらうと、コストがかかる。 ○ごみの排出量は、積極的には把握していないが、収集事業者からの報告や、週に何袋出しているかカウントすることにより、把握は可能。
オフィス	<ul style="list-style-type: none"> ○オフィス町内会で古紙類を回収。一定のコストはかかるが、個別にどうしようか考えなくてすむので楽。(設計事務所) ○CAD化が進み、図面(A2)の印刷は減少したが、お客様に渡すA3, A4の資料が増加。(設計事務所) ○電子データでの管理が進み、紙の量が減少。10年前から事業規模は1.5倍になったが、紙のコストは0.6倍。(会計事務所) ○情報が電子化されても、新たなシステムを構築する必要があり、紙ごみは増える一方。(流通アウトソーシング) ○会議等では、ペーパーレス化を図っており、以前と比べて紙は減少。(食品卸売業) ○シュレッダー古紙、雑がみは可燃ごみ。機密文書は、業者による溶解処理。(流通アウトソーシング) ○ODMが非常に多いが、雑がみとして分別し、回収業者に出している。(食品卸売業)
病院・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ○シュレッダー古紙をリサイクルできることを知らなかった。(病院) ○シュレッダー古紙をどのように分別徹底し、リサイクルすればよいかの情報がないため、これまで資源化してこなかった。(老人ホーム) ○紙おむつが非常に多いが、減らしようがない。(老人ホーム)

事業所	内容
店舗	<ul style="list-style-type: none"> ○紙類は可燃ごみとして、排出。(米販売店) ○米ぬかは、食用油用にリサイクル。(米販売店) ○ごみの排出量は未把握。本部では回収業者から、報告を受けているかもしれないが、店舗ではわからない。(食品スーパー) ○分別をしっかりといていなくても、業者が回収していくので、業者もいい加減だと感じる。(食品スーパー) ○店舗は、本部に従うだけなので、各店舗独自に取り組むことは難しい。(食品スーパー) ○持ち込みごみ対策として、お客様用のごみ箱を順次店内へ移動。(コンビニA社) ○可燃ごみの1/3が持ち込みごみである。(コンビニエンスストアC社) ○雑がみは、段ボールと一緒に回収できる条件が整っているエリア(全国500店舗)では、分別回収を実施。(コンビニエンスストアA社) ○過去に、試験的にごみの排出時に計量を実施したが、人員とスペース不足で困難。(コンビニエンスストアB社) ○食品廃棄物はケースごと排出。(コンビニエンスストアB社) ○食品廃棄物はケースと分別すると月1万円コストダウンにつながるが、分ける作業をアルバイトがすると、月3万円のコスト増になるため、全国で9割の店舗がそのまま排出。(コンビニエンスストアC社) ○契約は、従量制ではなく、週何回収するかによって決まる。(コンビニエンスストアB、C社) ○1店舗あたり、53.4kgのごみが出る。そのうち、9.9kgが食品廃棄物(コンビニエンスストアC社) ○市の分別ガイドを店舗に渡している。(コンビニエンスストアC社)

②提案・要望事項について

- 大企業のように、社会貢献として環境問題に取り組むのは難しい。条例等で規制されれば実施する。(共通)
- ごみ分別ボックスに貼れるようなビジュアルでわかるシールのようなものがあるとよい。(設計事務所)
- 以前は分別が出来ていなかったが、市のパンフレットを参考に分別できるようになった。イラスト入りでわかりやすい。(老人ホーム)
- ごみの分別・リサイクルでどのようなメリット(経費削減等)があるかを広報すべき。(会計事務所)
- 回収された資源がどのようにリサイクルされているかが、わからないので、メリットや意義が伝わるような広報をすると意識も変わる。(流通アウトソーシング)
- 小規模事業所は、市から表彰されると励みになる。(会計事務所)
- コンビニを事業系資源の回収拠点となるような条例等を整備できれば、近隣の小規模事業所から資源が集まり、回収効率があがるのでないか。(会計事務所)
- 少量でもリサイクルに廻せるルートがあればよい。(流通アウトソーシング)
- 町内会程度の規模でごみに関して協力する関係をつくることができればよい。(流通アウトソーシング)
- 行政の施設にいつでも持ち込めるような仕組みがあるとよい。(流通アウトソーシング)
- 分別ガイドはわかりやすいが、分けた後(出し方・排出場所・連絡先等)にどうすればよいかが時系列的な流れでわかるとよい。(流通アウトソーシング)
- 新規設立の登録時に、必ずごみに関する説明を受けるような仕組みにしてはどうか。(米販売店)
- 事業者団体の勉強会等に出向いて、分別等の説明をしたらどうか。(米販売店)
- 今後、雑がみについては取組む余地があるので、先進的な自治体と何か取組むことができるとよい。名古屋市とも直接協議したい。(コンビニエンスストアA社)
- 広報誌は元々興味がある人しか見ないので、興味のない人をいかに取り込むかが重要である。コンビニは1000人/日×300店舗=300,000人の客が来店するので、店頭での広報をすることが啓発につながる。(コンビニエンスストアA社)
- 持ち込みごみ削減のため、市民に対する啓発を行ってほしい。京都市では、ごみ箱に貼る「家庭ごみ持ち込み禁止 京都市」という自治体名入りの啓発ステッカーを市が作成・配布した。行政の啓発は一定の効果がある。(コンビニエンスストアC社)
- 人口は減少しても、世帯数は増えているので、ごみの絶対量は変わらないのではないか。いかに可燃ごみとして廃棄されるものを減らすかが、重要。その際、可燃ごみだけを有料化するなど、資源物を分別し可燃ごみを減らすことが、市民にとってどれだけインセンティブがあるかを考えるといいのではないか。(コンビニエンスストアC社)